

太井遺跡

—府立農芸高等学校水禽舎新築工事に伴う発掘調査—

令和4年3月

大阪府教育委員会

太 井 遺 跡

—府立農芸高等学校水禽舎新築工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会



序文

本書で報告します太井遺跡は、堺市美原区北余部に所在する古墳時代から中世にかけての遺跡です。付近を走る阪和自動車道の建設の際などに、古墳や古代の铸造工房跡などが確認されています。

大阪府では、大阪府立農芸高等学校水禽舎新築の計画を受け、発掘調査を令和2年度に実施しました。

調査では、古墳時代の掘立柱建物や自然流路を検出するとともに、自然流路から土器がまとまって出土しました。これらの成果は、これまでの太井遺跡の調査成果に新たな知見を加えるもので、この地域の歴史を解明していくうえで、重要な指標となるものです。

調査の実施にあたりましては、大阪府立農芸高等学校の関係者ならびに堺市文化財課、大阪府教育庁高等学校課の方々に、多大なご理解とご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

本府教育委員会では文化財の調査や保護、活用などの事業をさらに推進してまいります。今後ともいっそうのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和4年3月

大阪府教育庁文化財保護課長

稲田 信彦

例言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府教育委員会の依頼を受けて令和2年度に実施した、府立農芸高等学校水禽舎新築工事に伴う、堺市美原区北余部所在の太井遺跡の発掘調査報告書である。
2. 確認調査は文化財保護課調査事業グループ主査 井西貴子、同 関真一、副主査 木村啓章、技師 奈良拓弥、発掘調査は文化財保護課調査事業グループ技師 大澤嶺を担当者として実施した。
3. 遺物整理は、文化財保護課調査管理グループ専門員 藤田道子を担当者として実施した。
4. 試掘調査の調査番号は 19043、発掘調査の調査番号は 20013 である。
5. 本書に掲載した遺構写真の撮影は発掘調査担当者が行い、遺物写真の巻頭図版1、図版7～図版19は、イトーフォトに委託した。
6. 発掘調査にあたっては、基準点測量を株式会社アクセスに委託して実施した。
7. 本書の執筆及び編集は、大澤が行った。
8. 発掘調査の出土遺物や写真・図面等の記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
9. 発掘調査・遺物整理にあたっては、以下の方々よりご指導・ご教示・ご協力いただきました。
堺市文化財課、大阪府立農芸高等学校（順不同）
10. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した費用は、大阪府教育委員会が負担した。

凡例

1. 本書で用いる座標値は世界測地系（国土地理座標第VI系）に基づき、方位針は座標北を示す。水準値はT.P.値（東京湾平均海面）を用い、本文および挿図中ではT.P.+○mと表記する。
2. 遺構番号は、遺構の種類に関係なく、検出した順に付している。これは発掘調査での記録と合致する。また、掲載遺物に付した番号は通し番号で、挿図と図版の番号は一致している。
3. 土層および遺物の色調については、『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 / 2006年度版）に拠る。
4. 遺物実測図の断面は、須恵器・陶器・磁器を黒塗り、瓦器・瓦質土器を網伏せとし、その他を白抜きとした。
5. 引用・参考文献は巻末に一括した。

本文目次

序文	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経緯・経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経緯と方法	2
第2章 地理的・歴史的環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査成果	9
第1節 基本層序	9
第2節 検出した遺構	9
第3節 出土遺物	13
第4章 総括	21
引用・参考文献	23
遺物観察表	24
報告書抄録	

挿図目次

図1 調査位置図	1
図2 調査区配置図	2
図3 調査地周辺の地形	5
図4 調査地周辺遺跡地図	6
図5 太井遺跡既往調査地点	7
図6 調査区平面図	9
図7 東壁土層断面図	10
図8 南壁土層断面図	10
図9 掘立柱建物O1平面・断面図	11
図10 西壁土層断面図	12
図11 小土坑019・020平面・断面図	12
図12 自然流路東側断面図	12
図13 自然流路上器だまり平面図	13
図14 小土坑・自然流路上器だまり出土遺物その1	14
図15 自然流路上器だまり出土遺物その2	15
図16 自然流路上器だまり出土遺物その3	16
図17 20・28層出土遺物	17
図18 18・20層出土遺物	18
図19 1区自然流路・第3層・第2層出土遺物	19
図20 昭和62年度牛舎地点調査区との対比	22

巻頭図版目次

巻頭図版1 自然流路出土土器群

原色図版目次

原色図版1 調査区全景

原色図版2 西壁土層断面・自然流路上器だまり

図版目次

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 図版 1 壁面・掘立柱建物 01 その 1 | 図版 11 自然流路土器だまり出土遺物その 6 |
| 図版 2 掘立柱建物 01 その 2 | 図版 12 自然流路土器だまり出土遺物その 7 |
| 図版 3 掘立柱建物 01 その 3・小土坑その 1 | 図版 13 20・28 層出土遺物その 1 |
| 図版 4 小土坑その 2・自然流路その 1 | 図版 14 20・28 層出土遺物その 2 |
| 図版 5 自然流路その 2 | 図版 15 20・28 層出土遺物その 3 |
| 図版 6 小土坑・自然流路土器だまり出土遺物その 1 | 図版 16 18・20 層出土遺物 |
| 図版 7 自然流路土器だまり出土遺物その 2 | 図版 17 1 区自然流路出土遺物 |
| 図版 8 自然流路土器だまり出土遺物その 3 | 図版 18 第 3 層・第 2 層出土遺物 |
| 図版 9 自然流路土器だまり出土遺物その 4 | |
| 図版 10 自然流路土器だまり出土遺物その 5 | |

第1章 調査に至る経緯・経過

第1節 調査の経緯

本調査は大阪府立農芸高等学校水倉新築工事に伴うものである。

令和2年2月に大阪府教育庁高等学校課より大阪府教育庁文化財保護課に農芸高等学校内にある水倉の新築工事計画が伝達され、事業地の埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。文化財保護課では事業地が太井遺跡の遺跡範囲内に当たることから確認調査を実施するよう協力を求めた。

協議の結果、令和2年3月24日に確認調査を実施した。確認調査は建設予定地の水田に、 $1.0m \times 2.0m$ の調査区を2箇所、 $0.5m \times 0.5m$ の調査区を2箇所設定し実施した。確認調査では現代の耕作土の下に基盤層と考えられる層を確認し、包含層や遺構、遺物は確認できなかった。ただし東側に隣接する牛舎建設時の調査で古墳時代の掘立柱建物や須恵器が出土していることから、高等学校課と文化財保護課は協議を重ね、令和2年6月に大阪府教育庁より文化財保護法94条の届出がなされ、発掘調査が必要な旨を通知した。

令和2年5月高等学校課長より発掘調査実施の依頼を受け、令和2年8月から10月まで発掘調査を実施した。またこれらの調査にかかる遺物整理・報告書作成は令和2年12月から令和4年1月まで行った。

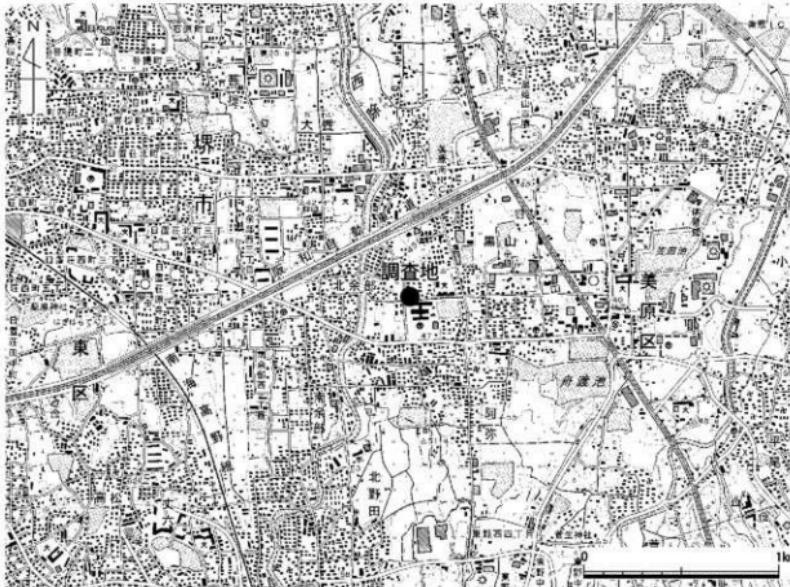


図1 調査位置図（国土地理院2万5000分の1地形図を改変）

第2節 調査の経過と方法

発掘作業

調査区の地区割は排土置き場の関係で2工区になることから、東側の1工区を1区、西側の2工区を2区とした。遺物の取り上げはこの地区割を用いて行った。

調査はまず重機によって現代の耕作土を除去した。それ以下の遺物包含層をスコップや鋤簍などを使用し人力によって掘削した。掘削した土はベルトコンベアによって調査区外へと搬出した。遺構の検出及び掘削は主に草刈り及び移植ゴテを使用した。

確認調査の結果から現代耕作土の下の基盤層で遺構を検出する予定であったが、調査区南半及び東半には現代耕作土の下にさらに近世の耕作土が存在することが判明した。そこで計画を変更し、再び重機

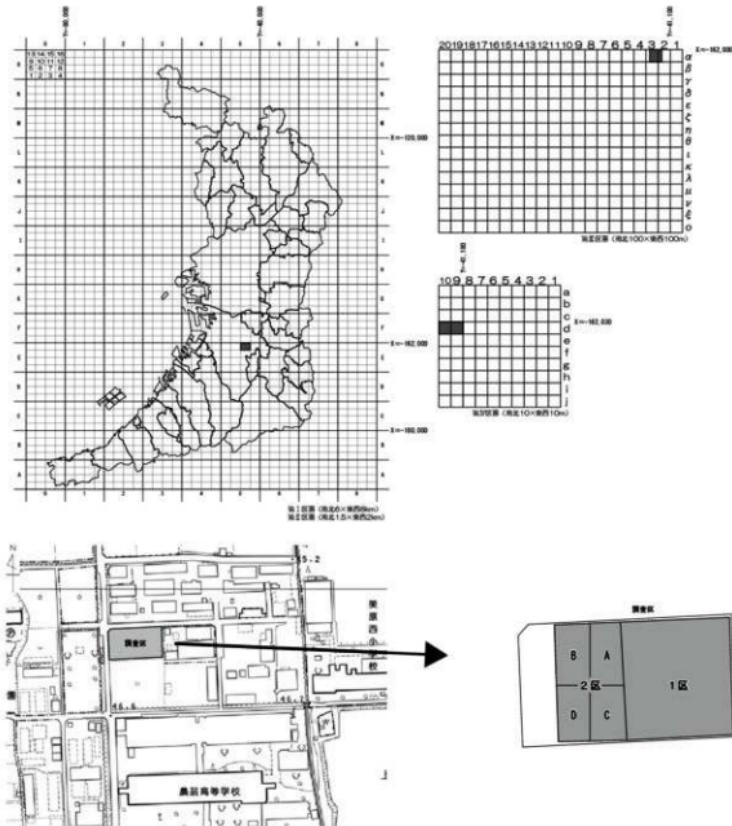


図2 調査区配置図(堺市発行2500分の1地形図を改変)

により近世の耕作土を除去した後に、遺物包含層を人力により掘削し、遺構を検出することにした。

基盤層上面で遺構を検出した後、平板測量を行い100分の1の遺構検出図を作成した。それとは別に、土の堆積状況を示す断面図や各遺構の詳細図面をエスロンテープやメジャーを用いて作成した。その後下層確認のため基盤層を掘削し堆積状況を確認した。重機により搬出した土の埋戻しを行い、10月上旬で調査は終了した。

写真撮影

調査区の各地区を撮影するため写真撮影用足場を使用して全景写真を撮影するとともに、個別の遺構に対して半裁した後、堆積状況の観察や構造分析のため断面写真を撮影した。写真撮影はAPS-Cセンサーのデジタルカメラを主に使用したが、重要な遺構や全景についてはフルサイズセンサーのデジタルカメラで撮影を行った。

整理等作業

報告書の作成は令和2年12月から実施した。現地で記録した図面・写真的整理を行うとともに、遺物の洗浄・復元・実測を行った。遺物の量はプラスチックコンテナ11箱分であった。

遺物実測図はスキャナーで原図を取り込み、デジタルトレースを行い、必要に応じてデジタル化した拓本を貼り込み、挿図を作成した。遺構図面も遺物図面と同様の手順で挿図を作成した。

現地で撮影した写真に関しては、現像・焼き付け及びデジタルプリントを行いファイルに格納した。また、報告書に掲載する遺物については、委託により写真撮影した。

以上の作業と並行して報告文を作成し、報告書の編集作業を行った。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

今回の調査地は西除川と東除川に挟まれた低位段丘上に位置する。この低位段丘は東に向けて一段上がり、東除川の谷底平野及び南北に延びる別の谷底平野に至るまで広がっている。なおこの南北に延びる谷は黒姫山古墳西側にも見られる。調査地の西側及び北側には西除川に沿って谷底平野が存在し、北側には段丘崖がある。ちなみにこの低位段丘の形成時期は東側の高い段丘が5万年～2万5000年前頃の堆積で、その後約2万年前頃に調査地が位置する段丘が堆積したようである。

低位段丘上には旧河道の痕跡があり、その痕跡上にため池や水路が存在する。全体の地形は北に向かつて緩やかに低くなっていくため、それらの水路も西除川に沿って北流する。

なお調査地周辺は戦後しばらく水田が営まれており、消滅したものも含めてため池や水路が確認できる。その後南側に位置する大阪府立農芸高校が施設を拡充し、付近も宅地化していくが、調査地は実習用として水田を営んでいた。

第2節 歴史的環境

第1項 周辺の歴史的環境

旧石器・縄文・弥生時代 顕著な遺構は確認されておらず、太井遺跡で旧石器時代と思われる包含層が確認されているのみである。一方でいくつかの遺跡の遺物包含層や後世の遺構からは石器や弥生土器が出土している。

古墳時代 太井遺跡周辺の開発が始まるのは古墳時代に入ってからである。周濠をめぐらした前方後円墳である黒姫山古墳が築造される（墳丘長114m）。出土した武器・武具類や埴輪から5世紀中葉に築造されたと考えられている。またその周囲ではどん山古墳、鎮守山古墳、けんけん山古墳、さる山古墳、さば山古墳、無名塚24号墳の6基の古墳が確認されている（森1953）。なお真福寺遺跡でも古墳が2基確認されている（森屋1997）。集落遺跡は余部日置荘遺跡で掘立柱建物群と土器群が確認されている。土器群は6世紀中葉の土器を中心に構成されており、当該期に集落が営まれていたものと考えられる（阿部2008）。

飛鳥～奈良時代 古墳時代後期に狹山池が築造されると当地域で開発が進行する。古墳の築造が停止してしばらくすると、太井遺跡の周辺にも寺院が建立される。丹比廃寺は出土瓦から創建が7世紀後半と考えられている。寺域や伽藍配置などについては不明である。また黒山廃寺では、丹比廃寺で用いられた軒丸瓦の范を一部改変して製作された軒丸瓦が出土している。このことから黒山廃寺は丹比廃寺にやはり遅れて創建されたと考えられている。ほかにも詳細は不明であるが、丹比神社の北部には奈良時代後期以降の瓦や平安時代後期の瓦が出土していることから、神宮寺跡があると伝わっている。なお、丹比神社は『延喜式』神名帳に記載された「丹比神社」に比定されている。

集落遺跡としては平尾遺跡が挙げられる。平尾遺跡では庇付の大型掘立柱建物や倉庫を含む42棟の建物群やそれに伴う柵列などが確認された。建物群の時期は6世紀末もしくは7世紀初頭に建築され8世紀中葉まで続いたと考えられており、その規模や出土遺物から郡衙とも推測されている（西川ほか2007）。そのほか、真福寺遺跡では掘立柱建物などの集落、瓦窯、白炭窯が作られた生産域、土壙墓、

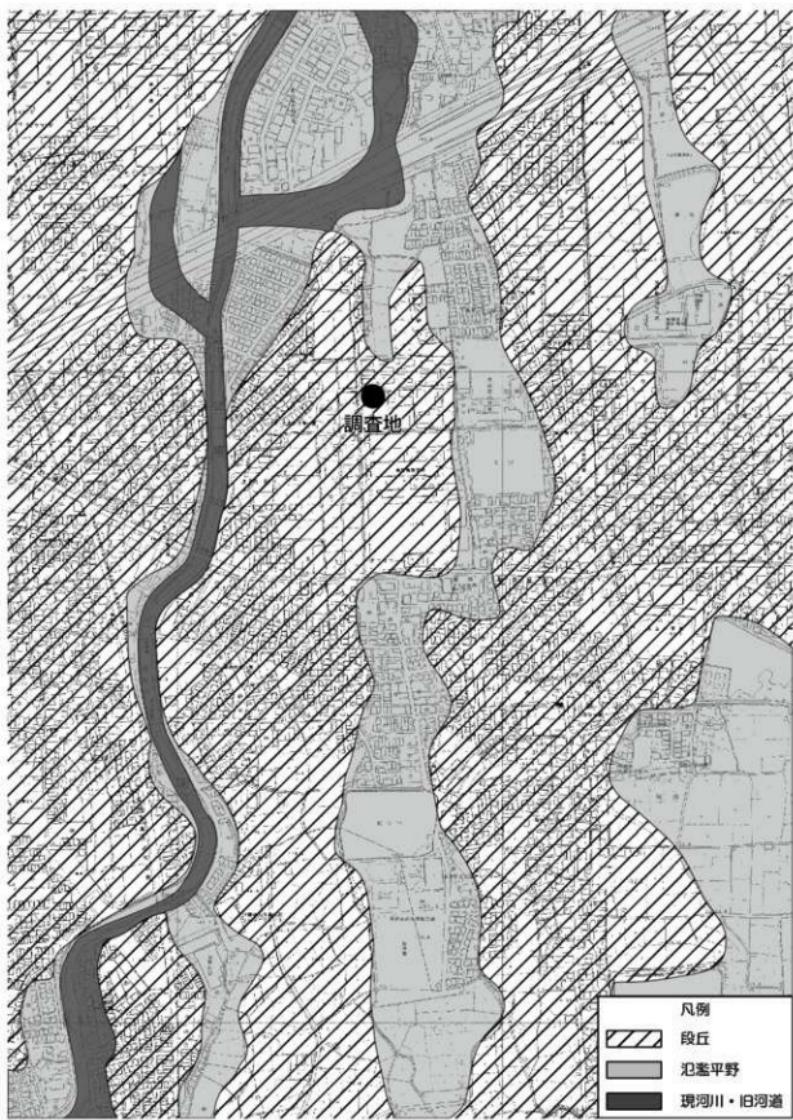


図3 調査地周辺の地形

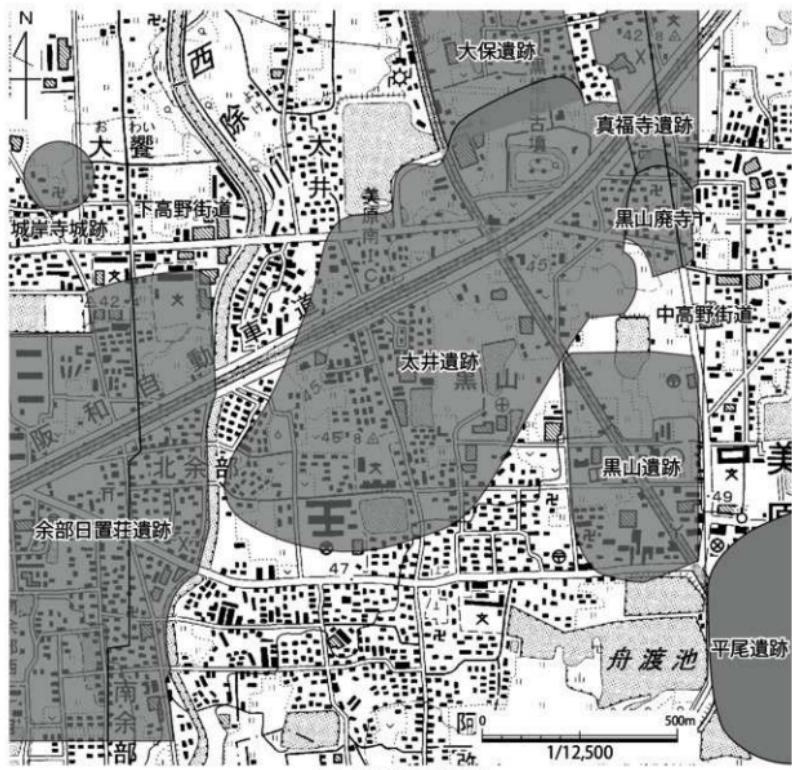


図4 調査地周辺遺跡地図

火葬墓の設けられた墓域がそれぞれ確認されている。また条里坪境を画する大溝が検出されており、条里制に基づいた水田が営まれていたことが判明している（森屋 1997）。大保遺跡でも掘立柱建物が複数検出されており、周辺に集落が多く営まれていたことが分かる（岩宮 2008、永井 2009）。

平安時代 奈良時代から平安時代にかけて、太井遺跡周辺でも条里制に基づく地割が行われた。これらの地割は現在でも遺構として確認することができる。この時代の遺跡は余部日置莊遺跡や大保遺跡が挙げられる。余部日置莊遺跡では多数の掘立柱建物を検出している。また犁溝も検出されており、集落域と耕作域の双方が確認されている。出土した遺物から、9世紀末から11世紀中葉にかけて集落が営まれていたと考えられる（阿部 2008、寺川ほか 1996）。一方大保遺跡で検出された掘立柱建物は、12～13世紀にかけての時期であり、平安時代から鎌倉時代初めにかけて集落が営まれていたと考えられる（岩宮 2008）。そのほか真福寺遺跡では平安時代に属すると考えられる掘立柱建物が検出されている。この集落は北側の丹上遺跡につながるものと考えられる（森屋 1997）。

中世 南北朝の戦乱期になると、太井遺跡周辺にも余部城や大齋城（城岸寺城）が築造された。余部城

は太井遺跡から西除川を挟んで西側に位置していた城郭である。13～15世紀の建物群と堀が確認されており、土器器皿や瓦器碗などの遺物が出土している（赤木ほか 1996）。また大饗城は城岸寺にあつたと考えられている。境内の発掘調査で建物の礎石や溝、石敷が確認されており、14世紀中頃と考えられている。余部城、大饗城とともに文献資料に見られる中世城郭であり、当地域が要所であったことがうかがえる。余部城周辺では鋳造土坑や鋳型片、炉壁片など多くの鋳造関連遺構が出土している。これらの遺構の時期は13世紀前葉から14世紀であり、この時期に当地域では鋳物師が活発に活動していたことがうかがえる（阿部 2008、寺川ほか 1996）。また真福寺遺跡でも13世紀後半の鋳造関連遺構が確認されている。この遺構で梵鐘の鋳型片が出土していることから、梵鐘鋳造遺構の可能性が高い（森屋 1997）。余部日置荘遺跡と真福寺遺跡は時期や鋳造遺構から「河内鋳物師」との関係が指摘されている。

近世以降 太井遺跡の東側を中高野街道が、西側を下高野街道が通っている。双方とも中世から近世にかけて整備されたと考えられ、高野山への参詣に利用された。

第2項 既往の調査

太井遺跡は、大阪府教育委員会、公益財団法人大阪府文化財センター、堺市文化財課が調査を行っている。確認されているのは古墳時代から中世にかけての遺構及び遺物であり、以下に簡潔ではあるが成果を記載する。

古墳時代 大阪府文化財センターの調査では、帆立貝式古墳であるさば山古墳が検出されている。残存状況は良くないが、全長34mで葺石と埴輪列を持っていることが明らかになっている。出土埴輪の特徴から、時期は黒姫山古墳に後出する5世紀末から6世紀初頭と考えられる。また、さば山古墳の西側では小型方墳群が検出されている。いずれも一辯10m以下で、周濠から須恵器が出土している（赤木ほか 1996）。またこの小型方墳群から南東約500m離れたところで、竪穴住居及び掘立柱建物を検出している。これらの建物群の時期は出土した須恵器から、6世紀後半から7世紀前半ごろと考えられる。大阪府教育委員会の調査では、掘立柱建物や土坑、溝を検出している。これらの建物群も出土した須恵器から6世紀後半のものと考えられる。

飛鳥～奈良時代 大阪府文化財センターの調査では、飛鳥時代から奈良時代前半にかけての建物群及び鋳造工房跡が検出されている。建物群は条里型地割りに沿った溝によって、北半と南半に群が分かれている。その間に鋳造工房は位置しており、和同開珎や輪羽口、トリベ、銅津などが出土している。時期は北半の建物群が古く、鋳造工房跡はそれに後出すると考えられる。その後奈良時代の終わりから平安時代にかけても、掘立柱建物や鉄器を加工したと考えられる土坑が検出されている。また炉壁や輪羽口を集積した遺構が4カ所検出されている。これらの建物は8世紀から9世紀前半ごろと考えられるが、9世紀後半以降は遺構・遺物の数が少なくなる。堺市教育委員会の調査でも、掘立柱建物群や溝、井戸などが検出されている。出土した遺物から8世紀から9世紀にかけての時期と考えられる。堺市の調査でも9世紀後半以降は遺構・遺物の数が減少することが指摘されており、当地での人の活動は一段落するものと考えられる。

中世 大阪府文化財センターの調査で、12世紀から13世紀にかけて溝などで区画された掘立柱建物や瓦窯が検出されている。井戸からは多くの瓦が出土しており、周辺に寺院が存在していたことも考えられる。平安時代末期から中世にかけて、再び集落が整備されていく様相が見て取れる。

近世以降 大阪府文化財センターの調査で、昭和時代の掩体が一基検出されている。単独で存在することやその形状などから、防空連隊傘下の照空中隊もしくは聴測中隊に帰属する分隊の陣地であった可能

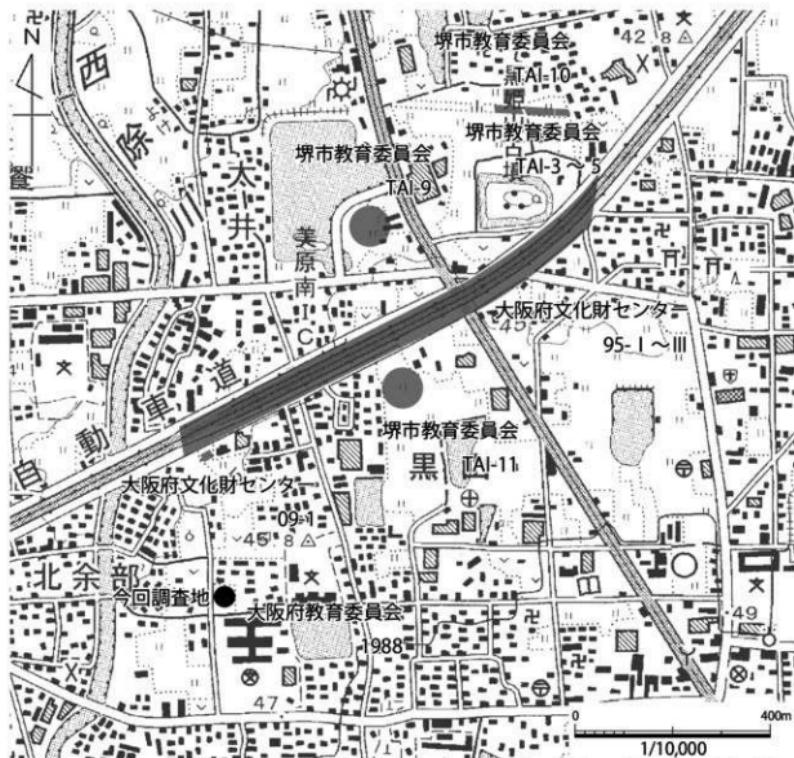


図5 太井遺跡既往調査地点

性が高い。

第3章 調査成果

第1節 基本層序

調査地は農芸高等学校の敷地内で、前年まで水田が営農されており、地表面はT.P.+44.3m前後ではほぼ平坦になっている。基本層序は1区北側とそれ以外で大きく異なる。1区北側は現代耕作土の直下で基盤層を検出している。基盤層は黄橙色シルト層で、この上面で古墳時代の遺構を検出した。また西にいくにしたがって、基盤層は疊が多く混じる黄色シルト層となる（図7）。一方1区南側及び2区は現代耕作土の下に近世耕作土、古代以降耕作土、古墳時代包含層が存在し、その下で灰白色シルトの基盤層及び古墳時代の自然流路を検出した（図8・10）。旧地形は南から北及び東から西に向かってわずかに傾斜している。1区北側で検出した基盤層の違いは旧地形に関係していると考えられる。

第2節 検出した遺構

掘立柱建物01（図9）

1区北東で検出した、柱穴001・005・006・007・009・010で構成される掘立柱建物である。建物の北側は調査区外に及ぶため全形は不明である。現状判明している規模は東西2.8m、南北3.5mである。建物の南北軸は西に58°振る。柱穴の中心間の距離は東西が1.5～1.6m、南北が0.9～2.0mを測る。柱穴の平面形は円形で、大きさは25～40cm、深さは13～25cmを測る。遺物は柱穴005から須恵器が出土している。

小土坑019（図11）

1区南東で検出した。東西61cm、南北54cm、深さは42cmを測る。遺物は須恵器の壺蓋もしくは

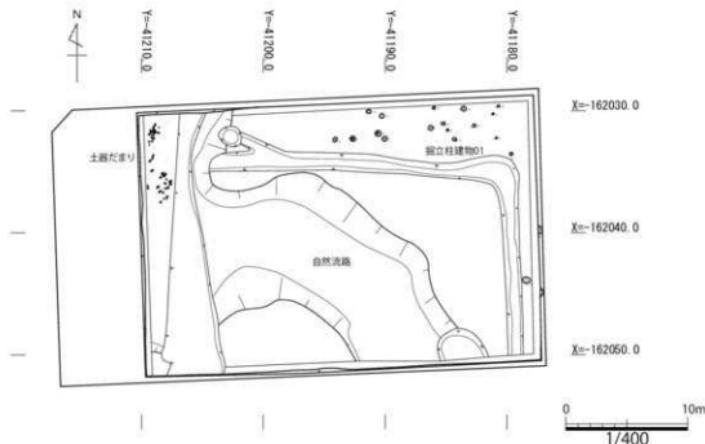


図6 調査区平面図

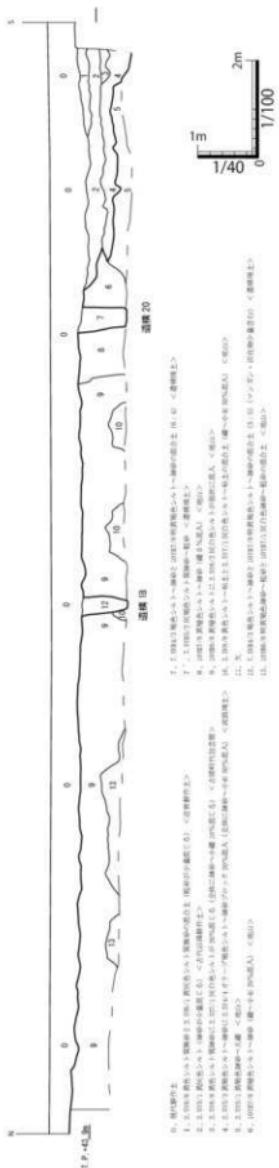


図7 東壁土層断面図

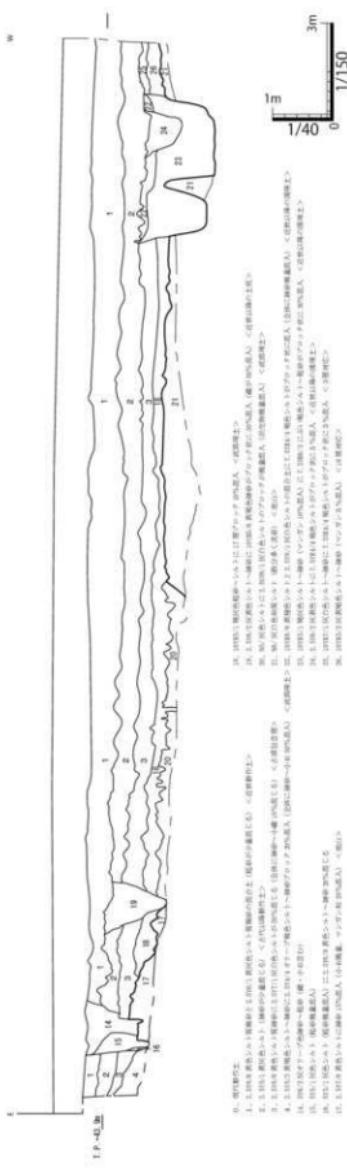


図8 南壁土層断面図

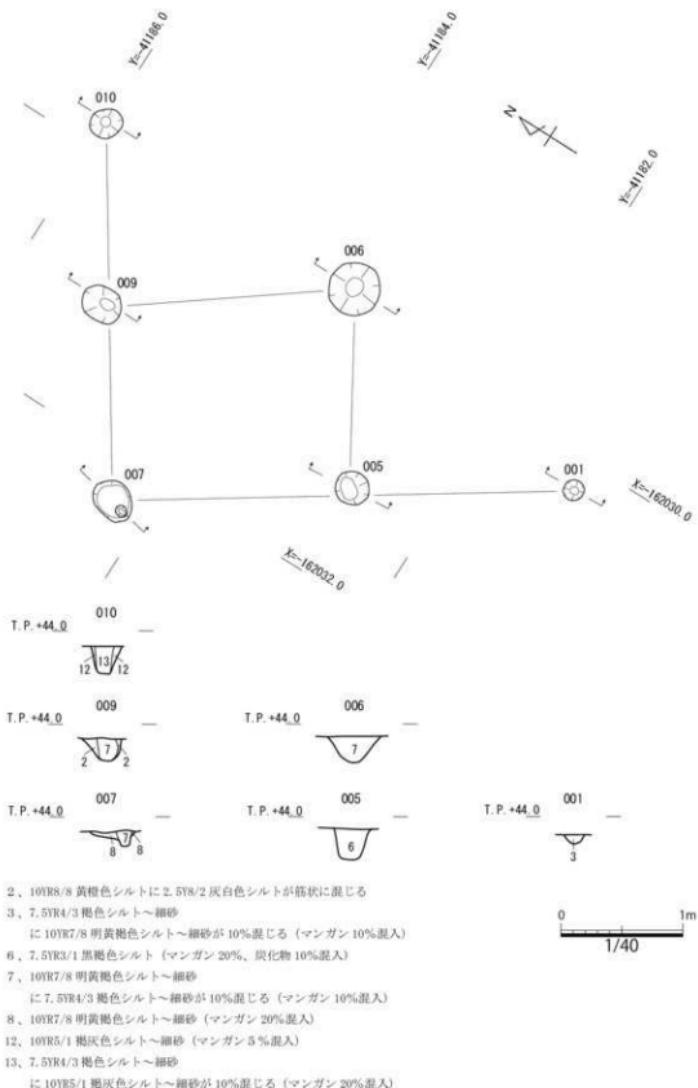


図9 据立柱建物01 平面・断面図

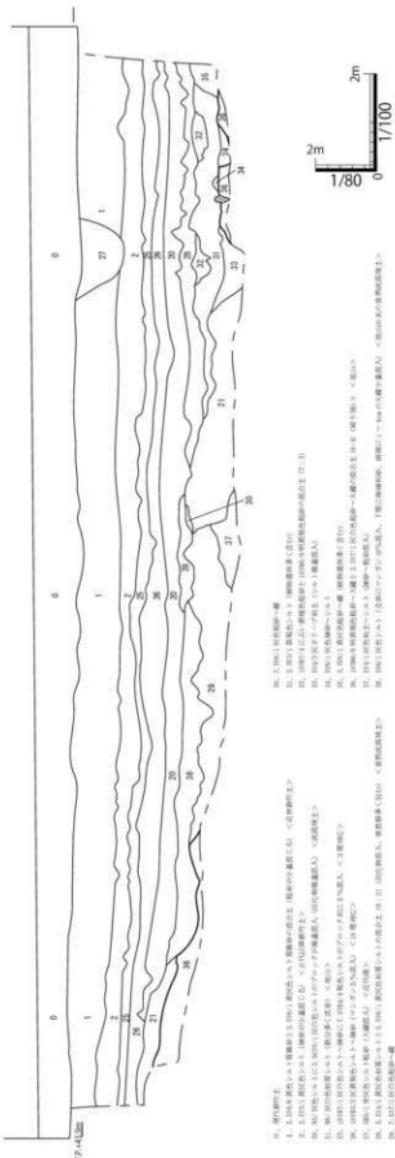


図 10 西壁土層断面図

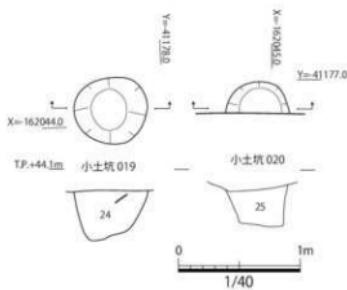


図 11 小土坑 019・020 平面・断面図

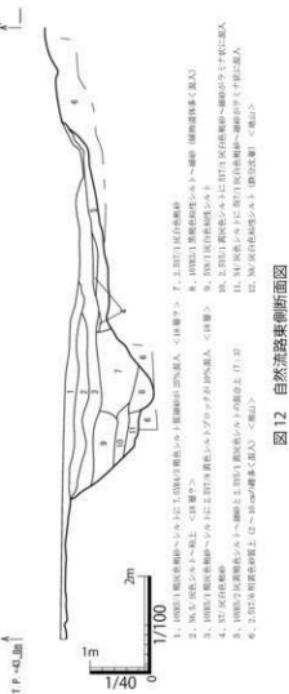


図 12 自然流路側面断面図

环身の破片が出土しており、古墳時代に属すると考えられる。

小土坑 020 (図 11)

1 区南東で検出した。側溝掘削中に検出したため全形は不明だが、南北 53cm、深さ 31cm を測る。遺物は須恵器の環蓋が出土しており、古墳時代に属すると考えられる。

自然流路

1 区の南から 2 区の西及び北に向けて広がる自然流路を検出した (図 6)。旧地形や現地形に従い、南東から北西に向けて流れる。長さ 26.7m 以上、幅 8.2 ~ 9.7m、検出面からの深さ 46cm を測る。埋土は、最下層に大疊を多く含む砂層があり、基盤層である疊が多く混じる黄色シルト層及び灰白色シルト層を侵食している。その上に黄灰色粗砂層や有機物が多く混じる黒褐色シルト層、須恵器が多量に混じる黄灰色シルト層、灰色シルト層が堆積している (図 10・12)。遺物は須恵器及び土師器が大量に出土しており、特に 2 区北西では残存の良い須恵器及び土師器を多く検出した (図 13)。これらの遺物から自然流路が機能していた時期は古墳時代後期と判断する。

第3節 出土遺物

遺構出土 (図 14)

1 は遺構 19 から出土した須恵器の环身もしくは环蓋である。外面に交差するヘラ記号を施す。2・3 は遺構 20 から出土した須恵器の环蓋である。3 は口縁端部の外側にカキメを施す。

自然流路土器だまり出土 (図 14~16)

4~12 は須恵器の环蓋である。4~7 は口縁端部内面に凹みを持つ。ほとんどの杯蓋は口縁部高が天井部高より低いが、5 はほぼ同じで、8 及び 12 は口縁部高が天井部高より高い。4 は口縁部と天井部の境に稜をもつ。焼成は不良で灰白色を呈する。5 は外面に鳥足状のヘラ記号を施す。色調はにぶい赤褐色を呈する。6 は外面に十字状のヘラ記号を施す。7 は外面に 1 条のヘラ記号が残存する。口縁端部内面に凹みをもつ。8 は外面に 2 条のヘラ記号を施す。9 は外面に 1 条のヘラ記号を施す。10 は口縁部と天井部の境が明瞭ではない。11 は口縁部と天井部の境が明瞭ではない。12 は口径が他の杯蓋と

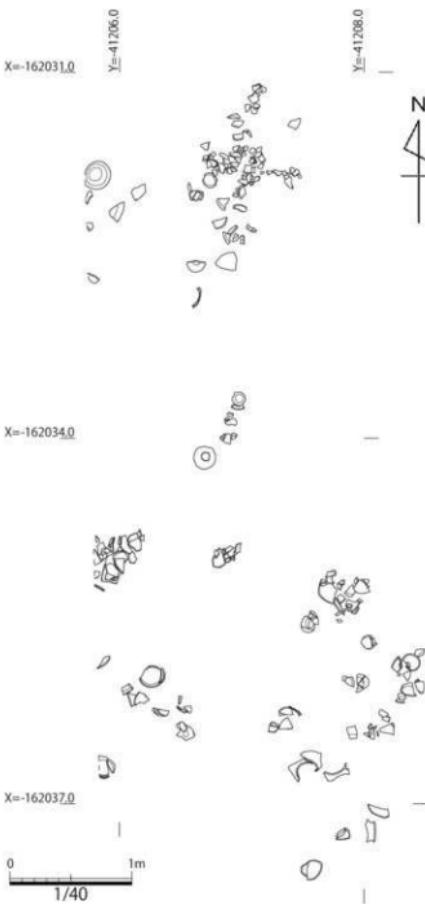


図 13 自然流路土器だまり平面図

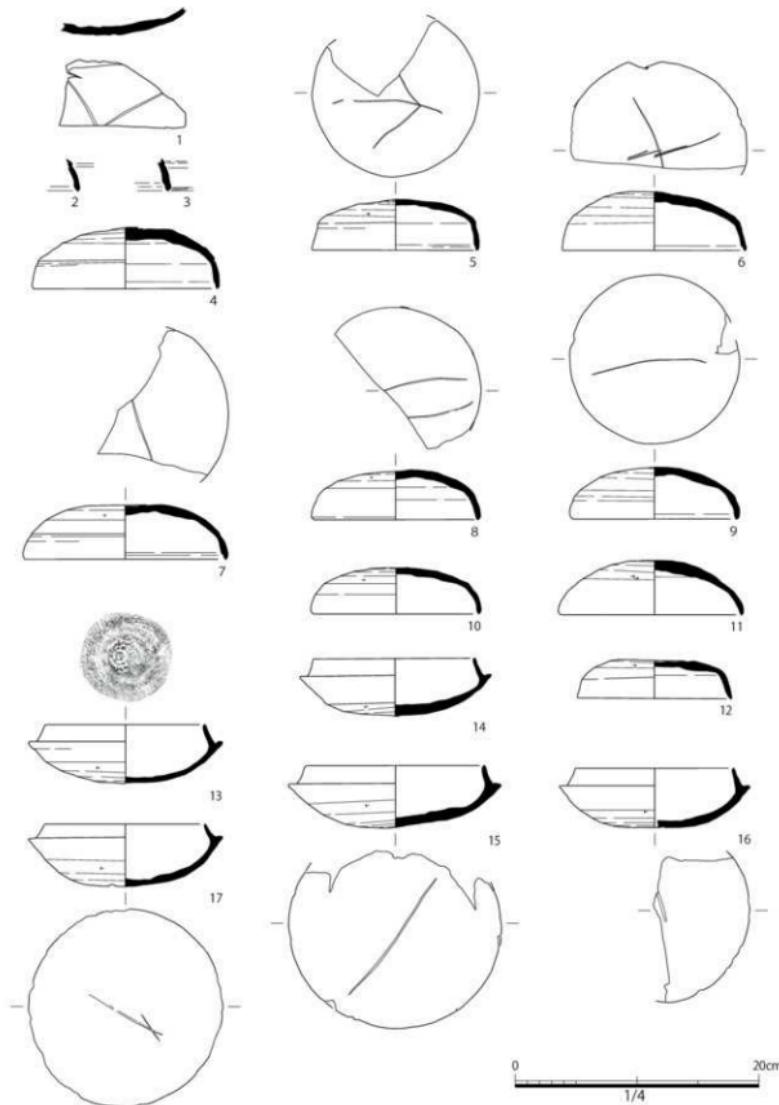


図14 遺構・自然流路土器だまり出土遺物その1

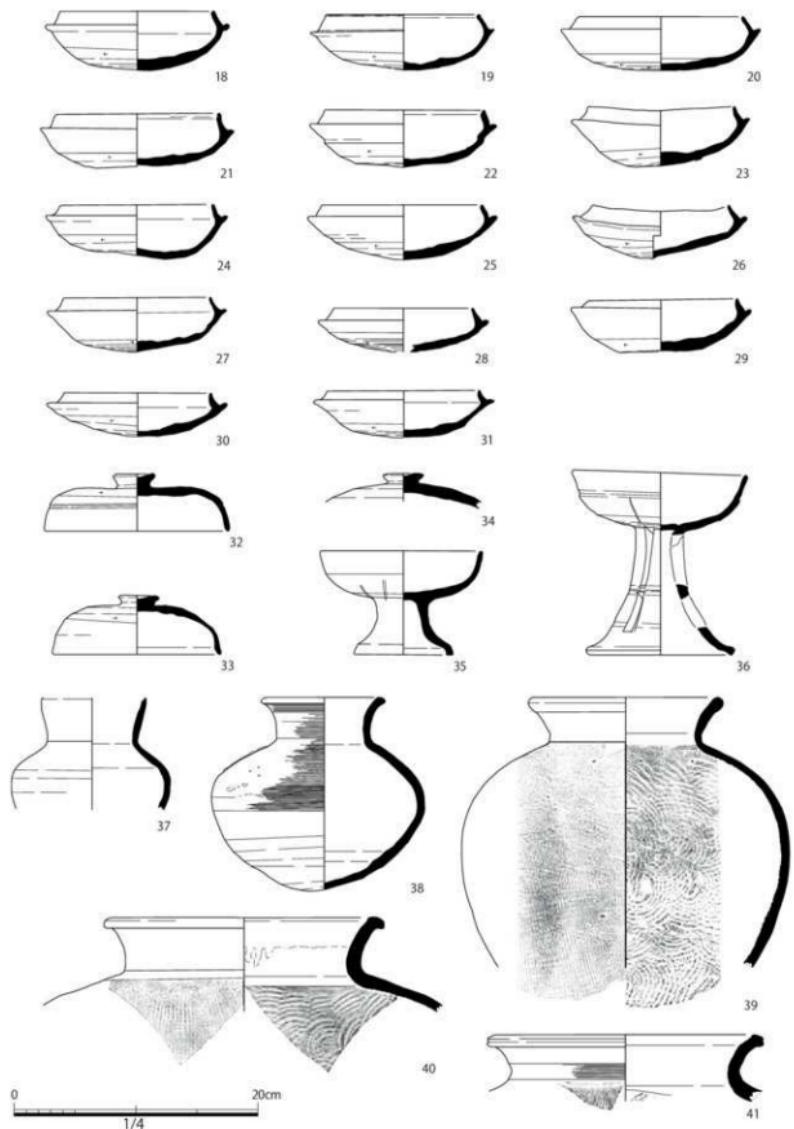


図15 自然流路土器だまり出土遺物その2

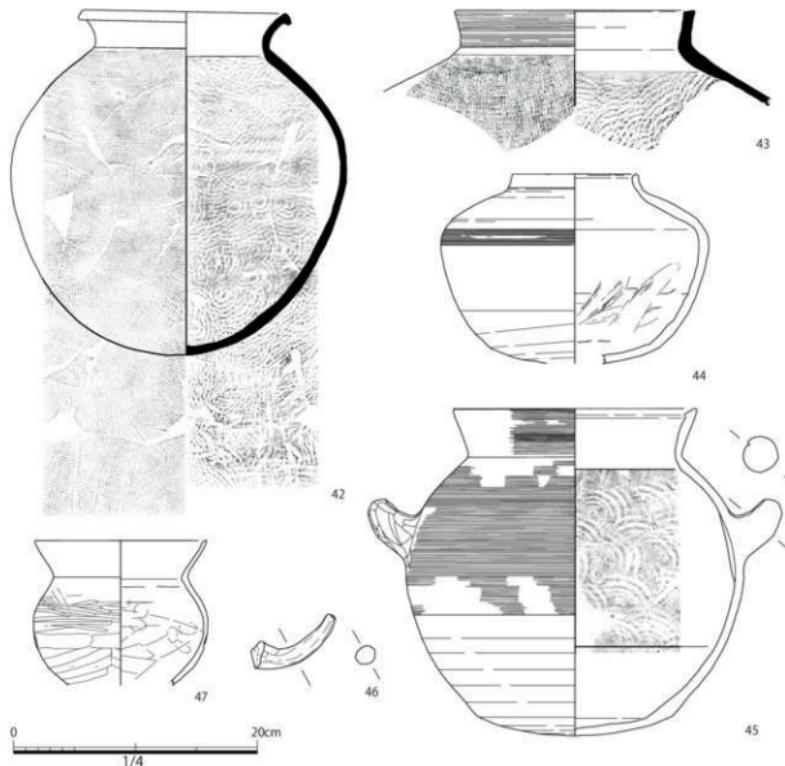


図 16 自然流路土器だまり出土遺物その3

比較して小さい。13～31は須恵器の杯身である。いずれも口縁部は内傾している。13～24はケズリを施すことで底面を作り出しているが、25～31はケズリ調整が施されるものの、底面が明瞭ではない。13～16の口縁部高は1.6～1.8cmである。13は内面に當て具痕が残存する。15は外面に1条のヘラ記号を施す。焼成は不良で灰白色を呈する。16は外面に1条のヘラ記号が残存する。焼成は不良で灰白色を呈する。17～23は口縁部高が1.2～1.4cmである。17は外面に2条の交差するヘラ記号を施す。19は口縁端部の外側にカキメを施す。22は外面のケズリ調整が粗雑で段差が存在する。24～31は口縁部高が1.0～1.2cmである。また25～31はケズリ調整が施されるものの、底面が明瞭ではない。24は内面に付着物の痕跡がある。26は焼き歪みが激しい。27は他の個体に比べてやや口径が小さい。29はケズリが粗雑で底部外面が凹んでいる。32～34は高环の蓋である。32は口縁部と天井部の境に稜をもつ。口縁部高が天井部高より高い。33は口縁部高が天井部高より低い。つまりの高さは32より低い。34は天井部の一部とつまみが残存する。つまみの高さは33とほぼ同じである。

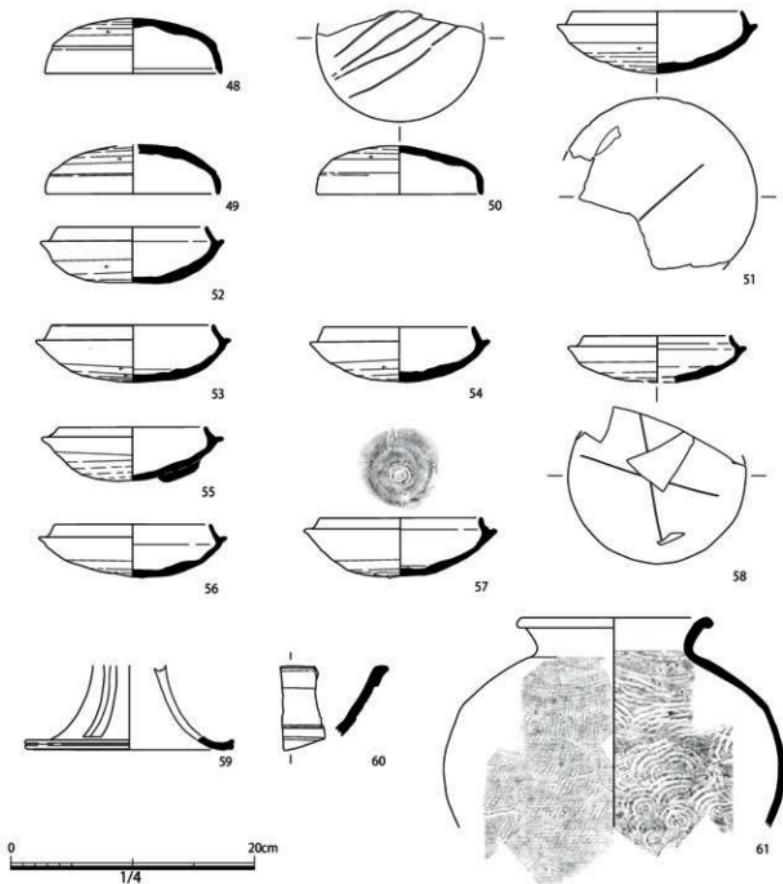


図 17 20・28 層出土遺物

る。焼成は不良で灰白色を呈する。

35 と 36 は須恵器の高杯である。両方とも杯部と脚部の接続部にヘラ記号を施す。35 は焼成が不良で灰白色を呈する。短脚で、透孔は確認できない。脚部の端部は屈曲して下を向いている。36 は口縁部と底面との境に凹線を施す。長脚で 2 段の方形透孔を 3 方向に設ける。上下の透孔の間には 2 条の凹線を施す。37 は直口壺である。外面調整はロクロナデ及びケズリを施す。38～43 は甕である。38 は他の甕に比べて小さい。最大径位置は胴部の中央付近である。口縁端部をわずかに外反させる。胴部上半の外面調整はカキメを施す。39 の最大径位置は胴部の上半である。口縁端部をわずかに肥厚させ

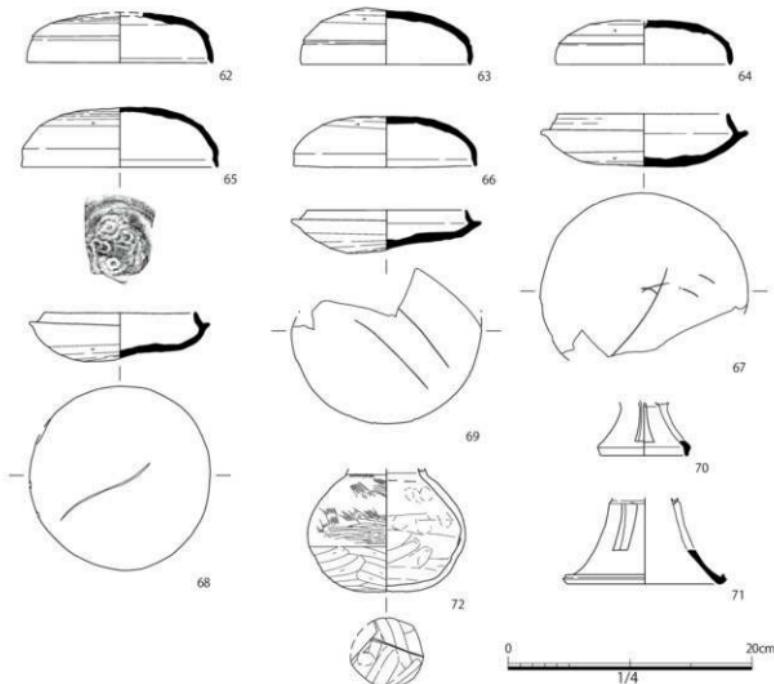


図18 18・20層出土遺物

る。40は口縁部と胴部の一部が残存する。口縁端部は外側に屈曲させる。41は口縁部のみ残存する。口縁端部は外側に屈曲させる。42の最大径位置は胴部の上半である。口縁端部は斜め下に屈曲させる。43は口縁部と胴部の一部が残存する。口縁部の形状は直口である。口縁部の外面調整はカキメを施す。44は短頸壺である。焼成が不良で灰黄褐色を呈する。最大径位置は胴部上半である。外面調整はケズリ及びカキメ、内面調整はケズリを施す。

45は把手付き鍋である。胴部中央よりやや上に把手を貼り付ける。把手の上面には切り込みが施される。口縁の端面は内傾する。外面調整は底部付近がケズリ、それ以外はカキメを施す。

47は土師器の小型壺である。外面には煤が付着する。外面調整は胴部上半にミガキ、下半にケズリを、内面調整はケズリを施す。46は把手付き鉢である。把手のみ残存する。調整はケズリを施す。

20・28層（図17）

48～50は須恵器の杯蓋である。いずれの杯蓋も口縁部高が天井部高より低い。48は口縁部と天井部の境に稜をもつ。口縁端部内面に凹みを持つ。49も口縁部と天井部の境に稜を持つ。焼成は不良でにぶい黄色を呈する。50は外面に4条のヘラ記号を施す。51～58は須恵器の杯身である。いずれも口縁部は内傾している。52と57はケズリ調整を施することで底面を作り出しているが、それ以外はケ

ズリ調整が施されるものの、底面が僅かもしくは明瞭でない。51～54の口縁部高は1.4cmである。51は外面に1条のヘラ記号を施す。焼成は不良で灰白色を呈する。55・56の口縁部高は1.2cmである。55は別の須恵器片が融着している。一部に自然釉が付着する。57は内面に當て具痕が残存する。58の口縁部高は10cmである。外面に2条の交差するヘラ記号を施す。59は須恵器の高杯である。脚部のみ残存する。方形透孔を3方向に設ける。端部は若干摘み上げており、端面は凹線状にくぼんでいる。60は器種不明須恵器の口縁部である。口縁形状は貼付口縁状であるが、断面から貼付痕跡は確認できない。破片下部にも低い突帯が存在する。

61は須恵器の甕である。最大径位置は胴部の中央付近である。口縁端部は外側に屈曲させる。

18・20層(図18)

62～66は須恵器の杯蓋である。64以外の個体は口縁端部内面に凹みを持つ。62～64は口縁部と天井部の境に稜をもつ。62は口縁部高と天井部高がほぼ同じだが、それ以外の個体は口縁部高が天井部高より低い。口縁端部内面に凹みをもつ。64は色調が赤褐色を呈する。65は内面に當て具痕が残存する。67～69は須恵器の杯身である。いずれも口縁部は内傾する。67の口縁部高は1.6cmである。外面に3条の円弧と2条の交差するヘラ記号を施す。68の口縁部高は1.2cmである。外面に1条の蛇行するヘラ記号を施す。焼き歪みが激しい。69の口縁部高は1.0cmである。外面に2条のヘラ記号を施す。焼き歪みが激しい。70と71は須恵器の高杯である。両方とも脚部のみ残存し、方形透孔を3方向に設ける。70は端部を下に向けて屈曲させている。71は長脚で、透孔の上には凹線が僅かに残存する。端部を上に摘み上げ、縁を形成している。72は土師器の小型壺である。胴部のみ残存する。底面は平らである。外面調整は胴部上半にハケ、中央付近にミガキ、下半にケズリを施す。底部外面に1条のヘラ記号を施す。

1区自然流路(図19)

73は須恵器の杯蓋である。口縁端部内面に凹みをもつ。口縁部と天井部の境に稜をもつ。口縁部高

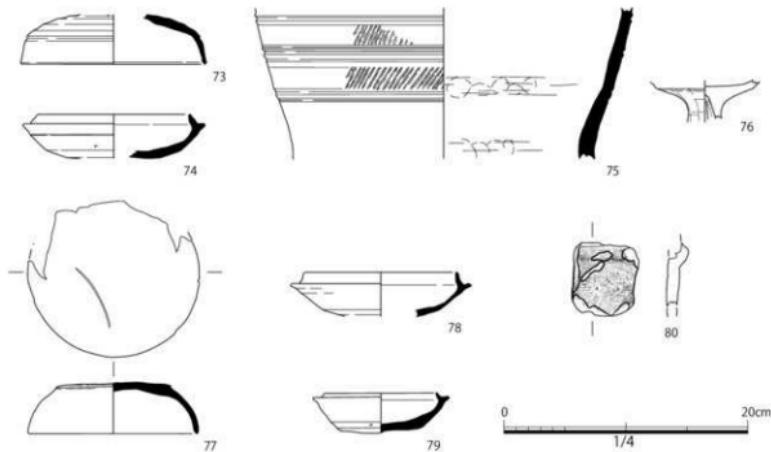


図19 1区自然流路・第3層・第2層出土遺物

と天井部高はほぼ同じである。74は須恵器の杯身である。口縁部は内傾する。口縁部高は1.0cmである。75は器種不明須恵器である。外面を2条の凹線で区画し、列点文で充填する。大型器台の破片となる可能性がある。76は土師器の高杯である。脚部と坏部の一部が残存する。脚部の内面には絞りの痕跡が確認できる。小型高坏の可能性が高い。

第3層（図19）

77は須恵器の杯蓋である。口縁部と天井部の境は確認できない。天井部は平坦である。外面に1条の弧線状のヘラ記号を施す。色調はにぶい橙色を呈する。78と79は須恵器の杯身である。いずれも口縁部は内傾する。78の口縁部高は1.0cm、79の口縁部高は0.4cmである。

第2層（図19）

80は円筒埴輪である。突帶が残存する。焼成は土師質である。黒斑が見られないため、窯窯焼成と考えられる。外面調整はヨコハケでB種ヨコハケが確認できる。

第4章 総括

太井遺跡では過去の調査で古代や中世の遺構も多く検出されているが、今回の調査で確認できたのは古墳時代に属する遺構・遺物のみである。以下簡単ではあるが、調査の成果と当地の様相をまとめたい。

第1節 調査の成果と復元される様相

今回の調査では古墳時代の掘立柱建物1棟と自然流路を検出した。掘立柱建物は調査区外に広がるため全形は不明だが、2間×2間の規模と推測できる。建物の南北軸は西に58度振っている。自然流路は概ね調査区の南東から北西に向けて流れているが、調査区の北壁及び西壁でも自然流路に起因する堆積を確認している。このことから調査区西側付近で流路が拡幅または分岐している可能性がある。また土器だまりを含む自然流路から出土した須恵器は6世紀中葉の形態である。

今回の調査区に隣接する牛舎の地点を調査した際に、古墳時代後期の掘立柱建物や溝を検出している。掘立柱建物は1間×2間から2間×3間のものが4棟、2間×4間の比較的大きなものが1棟確認されている。建物の南北軸は西に43～50度振っている。建物や溝内から6世紀中葉ごろの須恵器が出土している（図20）。

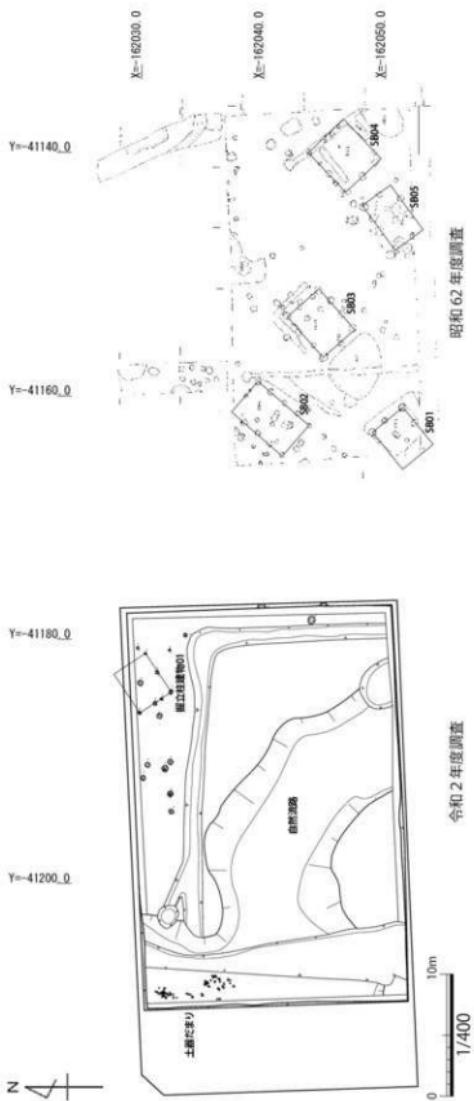
これらの調査成果を比較すると、今回の調査で検出した掘立柱建物は、牛舎地点の調査で検出した掘立柱建物群と一連のものと考えられる。また出土土器から推定した自然流路の機能時期は6世紀中葉であり、建物群とほぼ同じ時期である。このことから調査地周辺では自然流路が南東から北西に向けて延びており、そのほとりに掘立柱建物を中心とした集落が営まれていた様相が復元できる。

なお今回の遺構検出面の標高は44.0m、牛舎地点調査の遺構検出面の標高は44.3～44.4mであり、0.3～0.4m程度の標高差がある。水田耕作によって今回の調査地の遺構面が削平を受けていることを考慮しても、集落域のある低位段丘は西に向けて緩やかに低くなっていくと考えられる。

第2節 自然流路内土器だまりについて

今回の調査で検出した自然流路からは多くの須恵器や土師器が出土した。特に調査区の北西からは完形に復元できるものも含めまとまった数の土器が出土した。器種は須恵器の杯身・杯蓋・高环蓋・高环・直口壺・甕・把手付鍋、土師器の壺・把手付鉢を確認している。最も数が多いのは杯身で、高环や甕も複数個体存在する。別個体が融着した須恵器も出土しており、生産地からまとめて搬入もしくは周辺に須恵器窯を構築して生産していた可能性が考えられる。陶邑窯跡群と比較的の近い距離であるが、西に隣接する余部日置荘遺跡では自然流路の岸に須恵器窯を構築していたことが調査で明らかになっており、判断は難しい。

次に自然流路から多くの土器が出土した理由を検討してみたい。土器がまとまって出土した地点は調査区の西半であり、特に北西でまとまって出土したことはすでに述べた。この土器だまりの東側では、東西に延びていた岸が北に向けて方向を変えている。集落が営まれていた低位段丘は西に向けて下がっており、自然流路の岸となる。このことから1つは集落で使用しなくなった土器を廃棄している可能性が考えられる。ただし完形で出土している須恵器もあり、土器に時期差がほとんど認められないことから、日常的な廃棄というよりは集落廃絶時の廃棄と考える方が妥当である。2つ目は土器を用いた祭



祀を行っていた可能性である。祭祀の内容については知る由もないが、余部日置荘遺跡では類似した状況で土器が出土している。西除川西岸の段丘崖による落ち込みで土器だまりを検出しており、時期も6世紀前葉～中葉とほぼ同時期である。器種構成は余部日置荘遺跡の方が豊富で、頬なども出土している。報告書ではこの土器だまりについて、生活に使用した土器の単なる廃棄ではなく、祭祀の可能性も考慮すべきであると述べている（赤木ほか 1995）。廃棄か祭祀かを明らかにすることは困難であるが、西除川を挟んだ東岸と西岸で同じような土器だまりが検出されていることは特筆すべき点であり、今回の調査における重要な成果である。

引用・参考文献

- 赤木克視ほか 1995 『日置莊遺跡 近畿自動車道松原すさみ線及び都市計画道路松原泉大津線建設に伴う調査報告書』 大阪府教育委員会・財團法人大阪府文化財センター
- 赤木克視ほか 1996 『太井遺跡 近畿自動車道松原すさみ線及び都市計画道路松原泉大津線建設に伴う調査報告書』 大阪府教育委員会・財團法人大阪府文化財調査研究センター
- 阿部幸一 1989 『太井遺跡発掘調査概要―府立農芸高校牛舎建設に伴う調査―』 大阪府教育委員会
- 2008 『余部日置莊遺跡』 大阪府埋蔵文化財調査報告 2007-6 大阪府教育委員会
- 池峯龍彦・内本勝彦 2010 『大保遺跡(DIH-6)・太井遺跡(TAI-3)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第132冊 堺市教育委員会
- 市村慎太郎 2010 『太井遺跡・余部日置莊遺跡 大阪府営水道中期整備事業「バイパス送水管設工事」に伴う発掘調査』 ⑩大阪府文化財調査報告書第199集 財團法人大阪府文化財センター
- 岩宮未地子 2008 『大保遺跡(DIH-3)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告第120冊 堺市教育委員会
- 柿沼菜穂 2012 『瓦が語る美原の古代寺院一馬山廢寺をめぐって』 堺市立みはら歴史博物館
- 小谷正樹・近藤康司 2012 『太井遺跡(TAI-5)』『堺市埋蔵文化財調査概要報告第139冊』 堺市教育委員会
- 近藤康司・坂口浩司 2011 『大保遺跡(DIH-7)・太井遺跡(TAI-4)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第134冊 堺市教育委員会
- 坂口浩司 2017 『太井遺跡(TAI-9)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告第159冊 堺市教育委員会
- 坂口浩司 2018 『太井遺跡(TAI-10)・大保遺跡(DIH-9)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告第161冊 堺市教育委員会
- 堤千歳 2020 『太井遺跡(TAI-11)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告第169冊 堺市教育委員会
- 寺川史郎ほか 1996 『余部遺跡発掘調査報告 大阪府営美原住宅団地建設工事他に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』 公益財團法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第11集 財團法人大阪府文化財調査研究センター
- 永井正浩 2009 『大保遺跡(DIH-4)発掘調査概要報告』 堺市埋蔵文化財調査概要報告第123冊 堺市教育委員会
- 西川寿勝ほか 2007 『平尾遺跡』 大阪府埋蔵文化財調査報告 2006-3 大阪府教育委員会
- 森浩一 1953 『河内黒姫山古墳の研究』 大阪府文化財調査報告書第1集 大阪府教育委員会
- 森屋美佐子 1997 『真福寺遺跡 近畿自動車道松原すさみ線および都市計画道路松原泉大津線建設に伴う調査報告書』 公益財團法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第19集 財團法人大阪府文化財調査研究センター

遺物観察表

報告書 No.	地区 名	種類 名	器種 口径	高さ 幅	成・種・色調 高台径	地土		形成・残存率 備考
						内:	外:	
1	小土坑 19	陶器器 环			内: 7.5R5/1 赤灰色 外: N6/0 灰色 幅: 2.5YS5/2 灰赤色	やや粗 (3mmの白・灰・赤色良好 小石、白色微細粒含む)	20%	
2	小土坑 20	陶器器 环		残 2.6	内: N5/0 灰色 外: N6/0 灰色 幅: 7.5YS5/2 灰褐色	粗 (白色微細粒含む)	良好	10%以下 断面のみ
3	小土坑 20	陶器器 环		残 2.6	内: 5YT1 灰白色 外: 5YT1 灰白色 幅: 5YT2 灰白色	やや粗 (3.5mmの白色小石1ヶ、やや10%以下 白・黒色微細粒含む)	不良	
4	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 15.1 5.1 28 稲取上 No.29 B区 20・28 番 B区 18・20 番				内: 5YW1 灰白色 外: 5YT1 灰白色 幅: 5YT1 灰白色	やや粗 (3~2.5mmの白色小石、やや75% 1mm以下の白色小石含む)	不良	
5	2 区 B区北側側溝 28 番	陶器器 杯	13.5	4.2	内: 10R4/1 赤褐色 外: 2.5YS5/3 に 互い赤褐色・mmの白色小石、白・薄灰色 2.5YS4/2 灰褐色 幅: 5YW1 灰色	粗 (2~2.5mmの白色小石、1良好 70% mmの白・黑・灰色小石、白・ 黑色微細粒含む)	70%	ヘラ記号あり
6	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 15.0 4.9 28 稲取上 No.24 B区 20・28 番 B区 18・20 番				内: 7.5YS5/1 灰褐色 外: 7.5YS5/1 灰褐色 幅: 5YT1 灰白色・N5/0 灰色	やや粗 (3mmの白色小石、2良好 50% mmの白・黑・灰色小石、白・ 黑色微細粒含む)	50%	一部移動実測 ヘラ記号あり
7	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 16.5 4.5 28 稲取上 No.8				内: N5/0 灰色・7.5YS5/2 灰褐色 外: N5/0 灰色 幅: N5/0 灰色・3YS5/1 灰褐色	やや粗 (4mmのページュ色小石 良好 25% 1ヶ、1.5mm以下の白・灰褐色小石、 白色微細粒含む)	25%	一部反転復元 ヘラ記号あり
8	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 13.5 4.15 28 稲取上 No.22				内: N7/0 灰白色 外: 5YW1 灰色・5YS5/1 灰色 幅: 5YW5/1 灰褐色	やや粗 (4mmの白色小石、2~良好 50% 1.5mmの白・灰色小石、白・灰 色微細粒含む)	50%	一部反転復元 一部移動復元 ヘラ記号あり
9	2 区 B区北側側溝 28 番	陶器器 杯	13.4	4.3	内: N6/0 灰色 外: N6/0 灰色 幅: N6/0 灰色	やや粗 (3mmの白・薄ページュ 良好 90% 色小石、2mmの白色小石、1 mm以下の白色小石含む)	90%	ヘラ記号あり
10	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 13.5 3.8 28 稲取上 No.15 B区 20・28 番				内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色 幅: N5/0 灰色	やや粗 (6mmの白色小石1ヶ、良好 50% 2mmの白色小石、1mm以下の 白色小石含む)	50%	反転復元
11	2 区 B区北側側溝 28 番	陶器器 杯 瓶 14.7 4.5 B区自然道路土だまり 28 稲取上 No.2			内: 5YT1 灰白色 外: 5YW1 灰白色・10YRS4/1 5YS5/4 に互い赤褐色 幅: 5YW1 灰白色・5YT1 灰白 色	やや粗 (2.5mmの白・灰色小石、やや45% 2mmの白色小石、1mm以下 不良 の白色小石含む)	45%	反転復元 一部移動実測 ヘラ記号あり
12	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 杯 瓶 12.6 3.25 28 稲取上 No.20				内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色 幅: N5/0 灰色	やや粗 (7mm~5mmの白色小石、ほぼ完形 1ヶづつ、1.5~3mmの白色 小石少量含む)		
13	2 区 B区北側側溝 28 番	陶器器 环	13.0	4.8	内: N6/0 灰色 外: N6/0 灰色 幅: N6/0 灰色	やや粗 (3mmの白・灰色小石、良好 90% 拓本 2mmの白・灰色小石、白色微細 粒含む)	90%	拓本
14	2 区 B区西側側溝 28 稲取器 陶器器 环		13.2	4.8 だまり 2	内: N7/0 灰白色 外: N6/0 灰色 幅: N7/0 灰白色	やや粗 (4mm以下の白・灰色良好 70% 粒含む) 堪能	70%	
15	2 区 B区西側側溝 28 番	陶器器 环	14.3	5.15	内: 2.5YS5/1 灰白色 外: 2.5YS5/1 灰白色・2.5YT7/2 灰 黄色・10YR4/2 灰褐色 幅: 2.5YS5/1 灰白色	やや粗 (3mm以下の白・灰色良好 やや75% 粒を多く含む) 良	75%	ヘラ記号あり
16	2 区 B区自然道路土だまり 陶器器 环		13.0	4.9 28 稲取上 No.25	内: 10YR8/1 灰白色 外: 10YR7/1 灰白色 幅: 10YR8/1 灰白色	やや粗 (2mmの白・灰・黑色小石、やや25% 1mm以下の白・灰・黑色小石含む) 反転復元	25%	ヘラ記号あり
17	2 区 B区西側側溝 28 稲取器 陶器器 环		13.1	5.15 だまり 1	内: N5/0 灰色 外: N7/0 灰白色・N5/0 灰色 幅: N5/0 灰色	やや粗 (4mm以下の白・灰・黑色良好 ほぼ完形 色小石含む) 堪能	良好	ヘラ記号あり
18	2 区 B区西側側溝 28 番	陶器器 环	12.5	4.9	内: N6/0 灰色・N5/0 灰色 外: N6/0 灰色・N5/0 灰色 幅: N6/0 灰色	やや粗 (5mmの白色小石1ヶ、良好 90% 2.5~3mmの白・灰白色小石。 2mmの白色小石、1mm以下の 白色小石含む)	90%	

19	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 12.5 4.5	内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色 断: N5/0 灰色	やや粗 (3.5mm の白色小石 1 ヶ、良好 55% 2.5mm の白・灰色小石、1.5mm の白色小石、白色微細粉含む)	一部移動実測
20	2 区 B 区北側削清 28 番 滞留部 环身 13.6 4.45	内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色 断: N5/0 灰色・N5/0 灰色	やや粗 (4mm の灰色小石 1 ヶ、良好 30% 3mm の白色小石数ヶ、2mm の白・黑色小石、白・灰色微細粉 合む)	反転復元
21	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 13.3 4.55	内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色・10YR5/3 に付 B 区自然成路上器だまり 28 剥取上 No.22	青 (1mm 以下の白色小石、白色 良好 95% 無偏斜すばらに含む)	一部移動実測
22	2 区 B 区北側削清 28 番 滞留部 环身 13.1 4.8	内: 2.5Y7/1 灰白色 外: 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y5/2 番 2mm の白色小石、1mm 以下の不良 灰黄色 断: 2.5Y7/1 灰色	やや粗 (3mm の白・薄灰色小石、半 や ほぼ完形 白・灰黄色小石、白色微細粉含む)	
23	2 区 B 区北側削清 28 番 滞留部 环身 12.0 5.0	内: 2.5GY7/1 オリーブ灰色 外: 2.5GY7/1 明オリーブ灰色・3mm の白色小石、2mm の白・ 2.5GY6/1 オリーブ灰色 断: N5/0 灰色	やや粗 (4mm の白色小石 1 ヶ、良好 90% 白・黒・灰色小石含む)	
24	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 12.35 4.55	内: N7/0 灰白色 外: N6/0 灰色 断: N6/0 灰色・10R5/1 灰色	やや青 (4mm・3mm の白色小石、良好 75% 石 1.5mm 以下) 灰色小石多量含む)	
25	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 13.15 4.55	内: 7.5Y6/1 灰色 外: 7.5Y6/1 灰色 断: 7.5Y6/1 灰色	やや粗 (2mm の白色小石、白色 良好 60% 無偏斜多く含む)	一部反転復元
26	2 区 B 区西側削清 28 番 滞留部 环身 11.15 4.4	内: N6/0 灰色 外: N7/0 灰白色・5Y7/2 灰白色・3mm の白色小石、1.5mm 以下 N4/0 灰色 断: N6/0 灰色	やや粗 (3mm の白色小石 2 ヶ、良好 90% 白・灰白色小石、白色微細粉含む)	
27	2 区 D 区西侧削清 28 番 滞留部 环身 12.0 4.5	内: N8/0 灰白色 外: N8/0 灰白色・N7/0 灰白色 /灰色 断: N6/0 灰色	やや粗 (2mm 以下の白・灰色砂 良好 95% 料を多く含む) 單織	
28	2 区 B 区西侧削清 28 番 滞留部 环身 11.5 残 3.6	内: N6/0 灰色 外: N7/0 灰白色 断: N6/0 灰色	やや粗 (3mm の白・黑色小石、良好 25% 2mm の白色小石、1.5mm 以下 の白・黒・灰色小石含む)	反転復元
29	2 区 B 区西侧削清 28 番 滞留部 环身 12.2 4.4	内: N6/0 灰色 外: N6/0 灰色 断: N6/0 灰色	やや粗 (3mm の白・黑色小石、良好 65% 2mm の白・灰色小石、1mm 以下 下の白・灰色小石、白色微細粉 含む)	
30	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 12.0 3.6	内: 2.5Y7/1 灰白色 外: 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y5/1 黄 B 区 18・20 番 灰色 断: 2.5Y7/1 灰色	青 (2.5mm の灰白色小石 1 ヶ、や や 80% 1mm 以下の白・黒・淡茶色小石 不良 含む)	
31	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 环身 12.5 3.9	内: N6/0 灰色 外: N5/0 灰色・10Y7/1 灰色 (白 3mm の白色小石、白色微細粉含 無)	やや粗 (3mm の白・黑色小石、良好 90% 少額含む)	
32	2 区 内側削清 滞留部 林蔵 15.0 4.75	内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色・N4/0 灰色 断: N6/0 灰色	青 (1mm 以下の白・灰色砂粉を 良好 60% 少額含む) 單織	
33	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 林蔵 13.6 4.9	内: N5/0 灰色 外: N5/0 灰色・5Y5/1 灰色 B 区 20・28 番 断: N5/0 灰色・7.5YB6/2 灰褐色	やや青 (3mm の白・黑色小石、良好 60% 2mm の白・黑色小石、白・灰 色小石多量含む)	
34	2 区 B 区内側削清 28 番 滞留部 林蔵 2.9	内: 2.5Y7/1 灰色 外: 2.5Y7/1 灰色 断: 2.5Y7/1 灰白色	粗 (6.5mm の白色小石、4-3・不良 15% 2mm の白・黑色小石、1mm 以 下の白・灰色小石含む)	
35	2 区 B 区 20・28 番 滞留部 高坪 13.35 8.6	内: 2.5Y7/3 灰褐色 外: 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y7/2 灰 B 区 自然成路上器だ まり 28 番 剥取上 No.18 黄色 断: 2.5Y7/2 灰褐色	半粗 (4mm の白・灰色小石、半 や 70% 2mm の白・灰色小石 2 ヶ、2mm の白・灰色小石わず 不良 か、1mm 以下の白・灰色小石少 量、白色微細粉含む) ヘラゴリあり	
36	2 区 B 区西侧削清 28 番 滞留部 林蔵 14.4 15.35	内: L 級 部 15Y6/1 灰・色、(部 断 部 15Y6/1 灰色	やや粗 (5mm の白・灰白色小石、良好 60% 4mm の白色小石、1.5mm 以下 の白・黒・灰色小石、白色微細 2.5Y6/1 黄褐色、(部 12.5Y7/1 料含む) 灰白色・2.5Y6/1 黄褐色 断: 2.5Y6/1 灰褐色	ヘラゴリあり
37	2 区 B 区自然成路上器だまり 滞留部 小型 8.6 残 9.3	内: N7/0 灰白色 外: N7/0 灰白色・N6/0 灰色 B 区 18・20 番 断: N7/0 灰白色	青 (2mm の白色小石、白色微細 良好 30% 料わずかに含む)	一部反転復元

38	2 区 B 区 18・20 番	油壺器 小型	10.2	16.05	内: N6/0 黄色。 (口縁部)N8/0 黄 やや密(5mmの白色小石1ヶ)、良好 口 緑 B 区 20・28 番 黄 B 区自然道路土器だまり 28 番取上 No.16	内: N6/0 黄色。 (口縁部)N8/0 黄 やや密(5mmの白色小石1ヶ)、良好 口 緑 白色 Zmmの白・黑色小石。 1.5mm 不良 10 % 外: 2.5Y5/1 黄灰色。(自然輪)N8/0 以下の中の白・黑色小石含む 灰白色 断: N7/0 黄白色	部 10 % 頭部より 下はほぼ 完形
39	2 区 B 区西側溝 28 番土器 滅壺器 売	15.2	残	22.3	内: N8/0 黄色・N6/0 黄色 中半密 (3mm以下の白・灰・黒 良好 口 緑 頂 手柄あり だまり 2 B 区西側溝 28 番土器 だまり 1 の滅壺器含む 断: -	内: N8/0 黄色・N6/0 黄色 中半密 (3mm以下の白・灰・黒 良好 口 緑 頂 手柄あり 外: 2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y6/1 黄 砂粒を多く含む 色(口縁部) 断: -	頭部より 手柄 完形 25 %
40	2 区 B 区自然道路土器だまり 滅壺器 売	23.0	残 7.8	28 番取上 No.27	内: 2.5Y7/1 黄 白色、 (口 緑 斧 (2mmの白色小石、 1mm 以 真 刃 口縁部の一部反転復元 部)2.5Y5/1 黄灰色・N8/0 黄白色 下の白・灰・黑色小石含む) 型破 み 60 % 外: N7/0 黄白色、 (口縁部)2.5Y4/1 灰白色 断: 2.5Y6/1 黄白色	内: 2.5Y7/1 黄 白色、 (口 緑 斧 (2mmの白色小石、 1mm 以 真 刃 口縁部の一部反転復元 部)2.5Y5/1 黄灰色・N8/0 黄白色 下の白・灰・黑色小石含む) 型破 み 60 % 外: N7/0 黄白色、 (口縁部)2.5Y4/1 灰白色 断: 2.5Y6/1 黄白色	手柄 完形
41	2 区 B 区自然道路土器だまり 滅壺器 売	22.6	残 5.5	28 番取上 No.18	内: 2.5Y5/1 黄色、 (口縁部)2.5Y8/1 中 半密 (2mmの白・赤色小石、 良好 口 緑 頂 手柄あり 外: N4/0 黄色 断: N6/0 黄色・2.5Y6/1 黄白色	内: 2.5Y5/1 黄色、 (口縁部)2.5Y8/1 中 半密 (2mmの白・赤色小石、 良好 口 緑 頂 手柄あり 灰白色 1mm以下の白・赤色小石含む) 型破 み 20 % 外: N4/0 黄色 断: N6/0 黄色・2.5Y6/1 黄白色	手柄 完形
42	2 区 B 区 西無 施溝 28 番 滅壺器 売	17.7	28.3	28 番取上 No.28	内: N6/0 黄色 白 (2mmの白色小石ごくわずか)、 良好 内・外側拡張 外: N6/0 黄色 白色微細少量化含む 断: N6/0 黄色	内: N6/0 黄色 白 (2mmの白色小石ごくわずか)、 良好 内・外側拡張 外: N6/0 黄色 白色微細少量化含む 断: N6/0 黄色	内・外側拡張 あり
43	2 区 B 区自然道路土器だまり 滅壺器 売	19.7	残 8.1	28 番取上 No.28 B 区自然道路土器だまり 28 番取上 No.27	内: 2.5Y5/1 黄 黄色、 (口 緑 半密 (6mmの白色小石1ヶ)、 良好 口 緑 頂 手柄の一部反転復元 部)2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y8/1 黄 3mmの白色小石、 2mmの白・型破 み 60 % 外: N8/0 黄白色 (口縁部)2.5Y4/1 含む 断: 2.5Y6/1 黄灰色	内: 2.5Y5/1 黄 黄色、 (口 緑 半密 (6mmの白色小石1ヶ)、 良好 口 緑 頂 手柄の一部反転復元 部)2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y8/1 黄 3mmの白色小石、 2mmの白・型破 み 60 % 外: N8/0 黄白色 (口縁部)2.5Y4/1 含む 断: 2.5Y6/1 黄灰色	手柄 反転復元
44	2 区 B 区西側溝 28 番	油壺器 斧頭	10.4	残	内: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色・斧 (3mmの白・ 黄色 小石、 不良 45 % 一部移動尖削 B 区 20・28 番 黄 15.7 B 区 18・20 番 B 区 28 番取上 No.4 自然道路土器の下より 断: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色	内: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色・斧 (3mmの白・ 黄色 小石、 不良 45 % 一部移動尖削 外: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色・斧 黄色小石、 白・黄色 断: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色	反転復元
45	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 把手	20.0	27.1	28 番取上 No.4 付要 B 区 18 番 B 区 18・20 番 断: 10Y7/2/に ぶい 黄 純色	内: 10Y8/2 黄白色 半密 (3mmの白色小石、 2mm 不良 65 % 一部移動尖削 外: 10Y8/2 黄 黄色・10Y8/1 的白・黑色小石、 1mm 以下 断: 10Y8/2 黄白色 的白・黑色小石含む	反転復元
46	2 区 B 区自然道路土器だまり 土師器 把手	内: -	-	28 番取上 No.4	内: - 外: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色・1mmの白・灰色小石、 白色微細 不良 完形 2.5Y7/6 把柄 断: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色 2.5Y7/6 把柄	内: - 外: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色・1mmの白・灰色小石、 白色微細 不良 完形 2.5Y7/6 把柄 断: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色	完形
47	2 区 B 区自然道路土器だまり 土師器 売	14.1	残	28 番取上 No.9 自然流 路土器群の下より	内: 10Y7/3/に ぶい 黄 純色・斧 (1.5mmの灰色小石、 黄色を 半 密 40 % 一部移動尖削 外: 10Y6/2 黄 黄・純 色 断: 10Y7/3/に ぶい 黄 純色	内: 10Y7/3/に ぶい 黄 純色・斧 (1.5mmの灰色小石、 黄色を 半 密 40 % 一部移動尖削 外: 10Y6/2 黄 黄・純 色 断: 10Y7/3/に ぶい 黄 純色	反転復元
48	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯蓋	14.4	残 4.6	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 70 % 反転復元 外: N6/0 黄色 少量含む 断: N6/0 黄色	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 70 % 反転復元 外: N6/0 黄色 少量含む 断: N6/0 黄色	反転復元
49	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯蓋	14.0	残	内: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色・斧 (4mm以下の中の白・灰色砂粒を 良 好 45 % 移動尖削 B 区 18・20 番 4.05 断: 2.5Y8/3 黄白色・2.5Y6/3/に ぶい 黄色	内: 10Y7/4/に ぶい 黄 純色・斧 (4mm以下の中の白・灰色砂粒を 良 好 45 % 移動尖削 外: 2.5Y8/3 黄白色・2.5Y6/3/に ぶい 黄色 断: 2.5Y8/3 黄白色	移動尖削
50	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯蓋	13.4	4.0	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 55 % ヘラ記号あり 外: N5/0 黄色 少量含む 断: N6/0 黄色	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 55 % ヘラ記号あり 外: N5/0 黄色 少量含む 断: N6/0 黄色	ヘラ記号あり
51	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯身	13.95	4.1	内: 2.5Y8/1 黄白色 半密 (6mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 50 % ヘラ記号あり 外: 2.5Y4/1 黄白色・2.5Y6/1 黄 砂粒をわずかに含み、 2mm 以下の 不良 断: 2.5Y8/1 黄白色 白・灰色砂粒を多く含む)	内: 2.5Y8/1 黄白色 半密 (6mm以下の白・灰色砂粒を 良 好 50 % ヘラ記号あり 外: 2.5Y4/1 黄白色・2.5Y6/1 黄 砂粒をわずかに含み、 2mm 以下の 不良 断: 2.5Y8/1 黄白色 白・灰色砂粒を多く含む)	ヘラ記号あり 反転復元
52	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯身	12.1	4.7	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白色砂粒を少量 良 好 60 % 完形 外: N6/0 黄色 含む 断: N6/0 黄色	内: N6/0 黄色 白 (2mm以下の白色砂粒を少量 良 好 60 % 完形 外: N6/0 黄色 含む 断: N6/0 黄色	完形
53	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯身	13.25	4.75	内: N6/0 黄色 和 (6mm・5mmの白色 小石、 良好 60 % 外: N7/0 黄白色・2.5Y5/1 黄色 4mmの白・灰色小石、 3mmのE1・ 断: N6/0 黄色	内: N6/0 黄色 和 (6mm・5mmの白色 小石、 良好 60 % 外: N7/0 黄白色・2.5Y5/1 黄色 4mmの白・灰色小石、 3mmのE1・ 断: N6/0 黄色	
54	2 区 B 区 20・28 番	油壺器 杯身	12.3	4.55	内: N6/0 黄色 やや密 (2.5mmのペジュエ色 小石、 良好 50 % 一部移動尖削 外: N6/0 黄色・N5/0 黄色 1ヶ 断: N6/0 黄色・N5/0 黄色	内: N6/0 黄色 やや密 (2.5mmのペジュエ色 小石、 良好 50 % 一部移動尖削 外: N6/0 黄色・N5/0 黄色 1ヶ 断: N6/0 黄色・N5/0 黄色	一部移動尖削

55	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	12.0	4.5	内：N5/0灰白色 B区自然陶土器だまり 28層取上No.18 B区自然陶土器だまり 28層取上No.25	やや密 (2mm以下の白・灰色砂粒を含む) 外：7.5Y3/1オーリーブ灰褐色・鉛を多く含む) 7.5Y4/1灰褐色・N8/0灰白色 断：N6/0灰白色	やや密 (2mm以下の白・灰色砂粒を含む) 外：7.5Y3/1オーリーブ灰褐色・鉛を多く含む) 7.5Y4/1灰褐色・N8/0灰白色 断：N6/0灰白色	好 70%	一部移動実測
56	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	12.7	4.4	内：N5/0灰白色 外：N5/0灰白色・N8/0灰白色 断：N7/0灰白色	密 (3mm以下の白色砂粒を少量 含む) やや粗 (5mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 3mmの白・灰・黑色小石。 2mmの白色小石、1.5mm以下 の白・灰白色小石、白・灰色微細 粒含む)	密 (3mm以下の白色砂粒を少量 含む) やや粗 (5mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 3mmの白・灰・黑色小石。 2mmの白色小石、1.5mm以下 の白・灰白色小石、白・灰色微細 粒含む)	好 70%	反転復元
57	2区 B区北側削溝 28層	須恵器 环身	13.2	5.0	B区 20・28層	内：SY6/1灰白色 外：SY6/1灰褐色・SY5/1灰褐色 断：SY6/1灰褐色	やや粗 (5mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 3mmの白・灰・黑色小石。 2mmの白色小石、1.5mm以下 の白・灰白色小石、白・灰色微細 粒含む)	やや粗 (5mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 3mmの白・灰・黑色小石。 2mmの白色小石、1.5mm以下 の白・灰白色小石、白・灰色微細 粒含む)	一部移動実測
58	2区 B区北側削溝 28層	須恵器 环身	12.0	3.85	B区 20・28層	内：N7/0灰白色 外：N6/0灰白色 断：N7/0灰白色	密 (3mmの灰白色小石、2mm 良好 60%) やや粗 (3mmの灰白色小石1ヶ、良好 60%) 2mmの白色小石、白色微細粒含 む)	密 (3mmの灰白色小石、2mm 良好 60%) やや粗 (3mmの灰白色小石1ヶ、良好 60%) 2mmの白色小石、白色微細粒含 む)	ヘラ記号あり
59	2区 B区 20・28層	須恵器 高环 (脚)	残7.0	底	内：2.5Y7/1黄褐色 17.2	内：2.5Y7/1黄褐色 外：SY5/1灰白色 断：SY7/1灰白色	やや粗 (3mmの灰白色小石1ヶ、良好 50%) 2mmの白色小石、白色微細粒含 む)	やや粗 (3mmの灰白色小石1ヶ、良好 50%) 2mmの白色小石、白色微細粒含 む)	三方スカラシ
60	2区 B区 20・28層	須恵器			内：N7/0灰白色・N5/0灰白色 外：N5/0灰白色 断：N6/0灰白色	密 (2mm以下の白・灰色砂粒を 少量 含む) やや粗 (2mm以下の白・灰色砂粒を 少量 含む)	密 (2mm以下の白・灰色砂粒を 少量 含む) やや粗 (2mm以下の白・灰色砂粒を 少量 含む)	口縁部?	口縁部?
61	2区 B区 20・28層	須恵器 高	15.2	残	内：N8/0灰白色 B区自然陶土器だまり 28層取上No.26	やや粗 (3mm 黄色1ヶ。灰色小・良 好 口 縫 部 反転復元 石1ヶ、2mm以下長石。黄色 穀縫 50%)	やや粗 (3mm 黄色1ヶ。灰色小・良 好 口 縫 部 反転復元 石1ヶ、2mm以下長石。黄色 穀縫 50%)	口縫部?	口縫部?
62	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	15.3	残4.1	B区 18・20層 B区自然陶土器だまり 28層取上No.4自然陶 器・泥器の上より	内：N6/0灰白色・N7/0灰白色 外：SY6/1灰褐色 断：N7/0灰白色・N5/0灰白色	やや粗 (3mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 4mmの白・黑色小石、3mmの白・ 灰色小石、1mmの白・黑色小石。 白・灰色微細粒含む)	やや粗 (3mmの白色小石1ヶ、良好 70%) 4mmの白・黑色小石、3mmの白・ 灰色小石、1mmの白・黑色小石。 白・灰色微細粒含む)	一部移動実測
63	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	13.8	4.7	B区自然陶土器だまり 28層取上No.22	内：N6/0灰白色 外：N6/0灰白色 断：N6/0灰白色	やや密 良好 80%	やや密 良好 80%	
64	2区 A区 18・20層	須恵器 环身	14.2	3.6	B区北側削溝 28層	内：10R5/3赤褐色 外：2.5SY5/2灰褐色 断：10R5/3赤褐色	やや粗 (3.5~4mmの白色小石、良好 25%) 2mmの白色小石、1mm以下の 白色小石、白色微細粒含む)	やや粗 (3.5~4mmの白色小石、良好 25%) 2mmの白色小石、1mm以下の 白色小石、白色微細粒含む)	反転復元
65	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	16.0	4.9	B区 18・20層	内：N5/0灰白色 外：N5/0灰白色 断：7.5SY5/3に近い褐色	密 (1mm以下の白・灰色砂粒を 良好 20%) わずかに食む)	密 (1mm以下の白・灰色砂粒を 良好 20%) わずかに食む)	内部指標あり 反転復元
66	2区 B区 20・28層	須恵器 环身	14.8	4.2	B区自然陶土器だまり 28層取上No.4	内：SY7/1灰白色 外：2.5SY1/1灰白色・SY6/1灰褐色 断：SY7/1灰白色	やや密 (2mmの白・黑色小石。半々 75%) 白色微細粒含む) 不良	やや密 (2mmの白・黑色小石。半々 75%) 白色微細粒含む) 不良	反転復元
67	2区 A区 18・20層	須恵器 环身	14.0	4.4		内：NG/0灰白色 外：NG/0灰白色 断：NG/0灰白色・N4/0灰白色	粗 (1.5~5.5mmの白色小石1ヶ。良好 65%) 3.5mmの白色小石・2.5mmの 白色小石・1mmの白色小石多量 に含む)	粗 (1.5~5.5mmの白色小石1ヶ。良好 65%) 3.5mmの白色小石・2.5mmの 白色小石・1mmの白色小石多量 に含む)	ヘラ記号あり
68	2区 B区 18層	須恵器 环身	12.25	4.1		内：N6/0灰白色 外：N6/0灰白色 断：N6/0灰白色	やや粗 (3~4mmの白色小石、良好 95%) 2mmの白色小石、1mm以下の 白・黑色小石含む)	やや粗 (3~4mmの白色小石、良好 95%) 2mmの白色小石、1mm以下の 白・黑色小石含む)	ヘラ記号あり
69	2区 B区 18・20層	須恵器 环身	13.0	3.6		内：N7/0灰白色 外：2.5SY1/8灰白色・2.5Y6/1黄 色 断：N7/0灰白色	やや密 (2.5mmの白色小石、良好 60%) 1mm以下の白色小石、黑色微細 粒含む)	やや密 (2.5mmの白色小石、良好 60%) 1mm以下の白色小石、黑色微細 粒含む)	一部移動実測 ヘラ記号あり
70	2区 B区 18・20層	須恵器 高环 (脚)	残4.4	底		内：7.5SY1/1灰褐色 外：N8/0灰白色・7.5Y7/1灰白色 断：7.5Y4/1灰褐色	密 (白色微細粒含む) 良好 50%	密 (白色微細粒含む) 良好 50%	内部指標あり 反転復元
71	2区 B区 18・20層	須恵器 高	残7.1	底	(脚)	内：N8/0灰白色 外：10Y4/1灰褐色 断：N7/0灰白色	やや密 (3mmの白・灰色砂粒を 良好 25%) 2mmの白・灰色小石、白色微細 粒含む)	やや密 (3mmの白・灰色砂粒を 良好 25%) 2mmの白・灰色小石、白色微細 粒含む)	三方スカラシ
72	2区 B区 18・20層	土師器 盆			B区自然陶土器だまり 28層取上No.26	内：10Y7/2に近い・黃褐色 外：10Y8/2灰黃褐色 断：10Y7/2に近い・黃褐色	や (白色微細粒含む) 不良	や (白色微細粒含む) 不良	一部移動実測 反転復元
73	1区 滾路トレンチ	須恵器 环身	15.0	残 4.1		内：NG/0灰白色 外：NG/0灰白色・SY8/1灰白色 断：SY8/2灰褐色	やや粗 (2.5mmの白・灰色砂粒を 良好 30%) 1mmの白・灰色小石、白色微細 粒含む)	やや粗 (2.5mmの白・灰色砂粒を 良好 30%) 1mmの白・灰色小石、白色微細 粒含む)	ヘラ記号あり
74	1区 滾路 砂層の上の灰褐色粘土	須恵器 环身	12.4	残 3.7		内：N5/0灰白色 外：N5/0灰白色 断：N5/0灰白色	密 (4mm以下の白・灰色砂粒を 良好 45%) わずかに含む)	密 (4mm以下の白・灰色砂粒を 良好 45%) わずかに含む)	口縫部?

75	I 区 B 区自然流域灰色粘质土 滤器 20 箬	残 12.5	内：N6/0 灰色 外：N5/0 灰色 断：10YR6/1 赤灰色	やや湿 (3mm の白色小石、良好 10%以下 反転現元 2mm の白色小石、白・灰色微細 粒含む)
76	I 区 流路 土師器 高坪 砂層の上の灰黑色粘質 土層	残 3.4	内：10YR8/3 淡黄色・10YR7/2 黄 (1mm の白・黑色小石、白色 不良 坪部と標一部反転現元 にぶい褐色 にぶい褐色 外：10YR8/3 淡黄色・10YR7/2 にぶい褐色 断：10YR8/3 淡黄色・10YR7/2 にぶい褐色	帶鐵粒をわずかに含む) 部のつけ 部部分の 2%
77	2 区 B 区第 3 級砂利帯 濾器 环砂 13.8 4.3		内：7.5Y6/1 灰色・7.5YR6/4 にやや湿 (3mm 以下の白・茶色砂 良好 70% ヘラ足跡あり にぶい褐色 外：7.5Y6/1 灰色・7.5YR6/4 に にぶい褐色 断：7.5Y5/4 にぶい褐色・7.5Y5/1 灰褐色	粒を多く含む) 一部移動実測
78	第 3 級 濾器 环砂 12.8 3.7		内：N6/0 灰色 外：N6/0 灰色 断：N6/0 灰色・N5/0 灰色	やや湿 (3mm の灰色小石 1 %。良好 10% 反転現元 2 ~ 1.5mm の白色小石、白色濃 細粒含む)
79	第 3 級 下の砂層との境 濾器 环砂 9.15 3.35		内：N6/0 灰色 外：N6/0 灰色・N5/0 灰色 断：N5/0 灰色	湿 (1mm 以下の白・灰色砂利を 良好 95% 少量含む) 堅硬
80	2 区 機械剥削 第 2 層 濾器		内：5Y7/6 棕色・5YR7/2 明褐色 包 外：5Y7/6 棕色 断：5Y6/1 灰色	やや粗 (3mm の灰色小石、2.5mm 穴 穴 むずか の黒・白・灰色小石、1mm 以下 不良 の白・灰色小石、白色微細粒含む)

図 版



1区全景



2区全景

原色図版二 西壁土層断面・自然流路土器だまり



西壁土層断面



自然流路内土器だまり検出状況

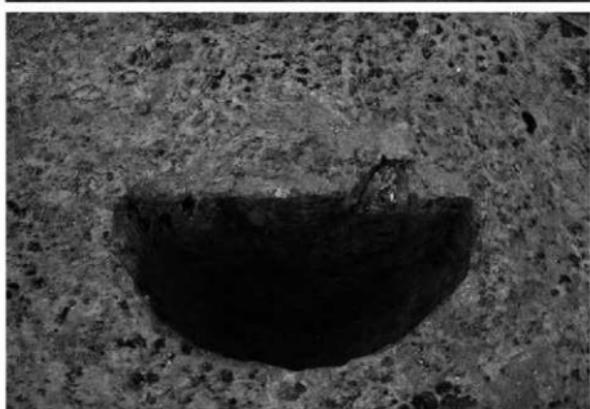
図版一
壁面・掘立柱建物〇一その1



南壁断面

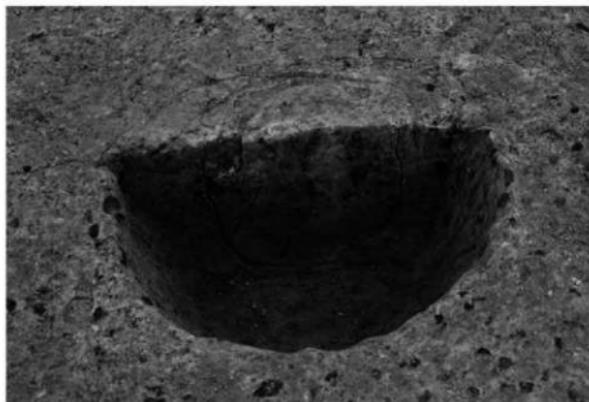


掘立柱建物 01 (南西から)

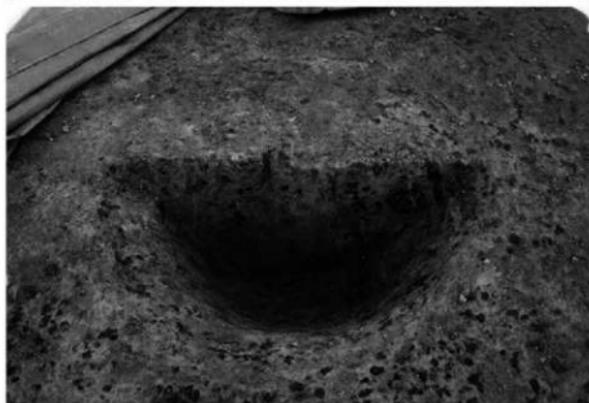


柱穴 010 断面 (南から)

図版一
掘立柱建物〇一その2



柱穴 009（南から）



柱穴 006（南から）

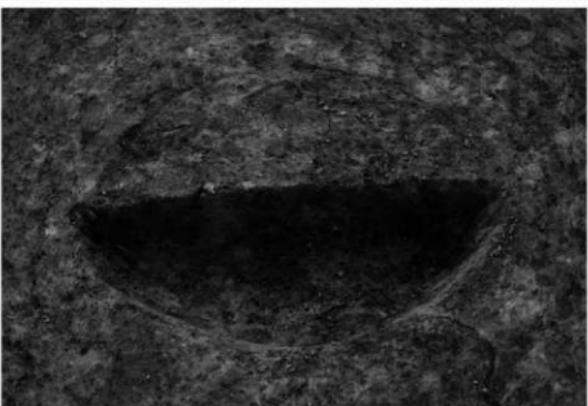


柱穴 007（南から）

図版三 挖立柱建物〇一その3・小土坑その1



柱穴 005（南から）



柱穴 001（南から）



小土坑 019（南から）

図版四

小土坑その2・自然流路その1



小土坑 020 (西から)



自然流路検出状況（東側）



自然流路検出状況（西側）



自然流路東側断面（南から）



自然流路西側断面（北西から）

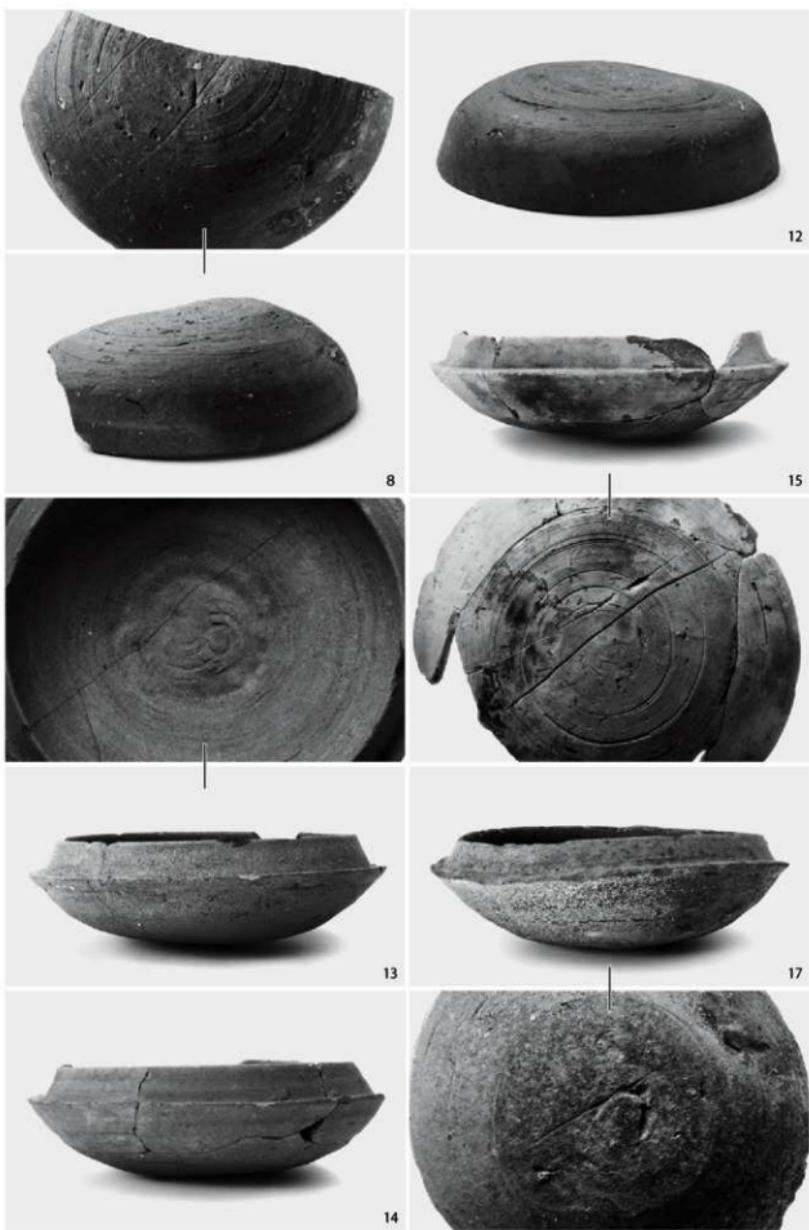


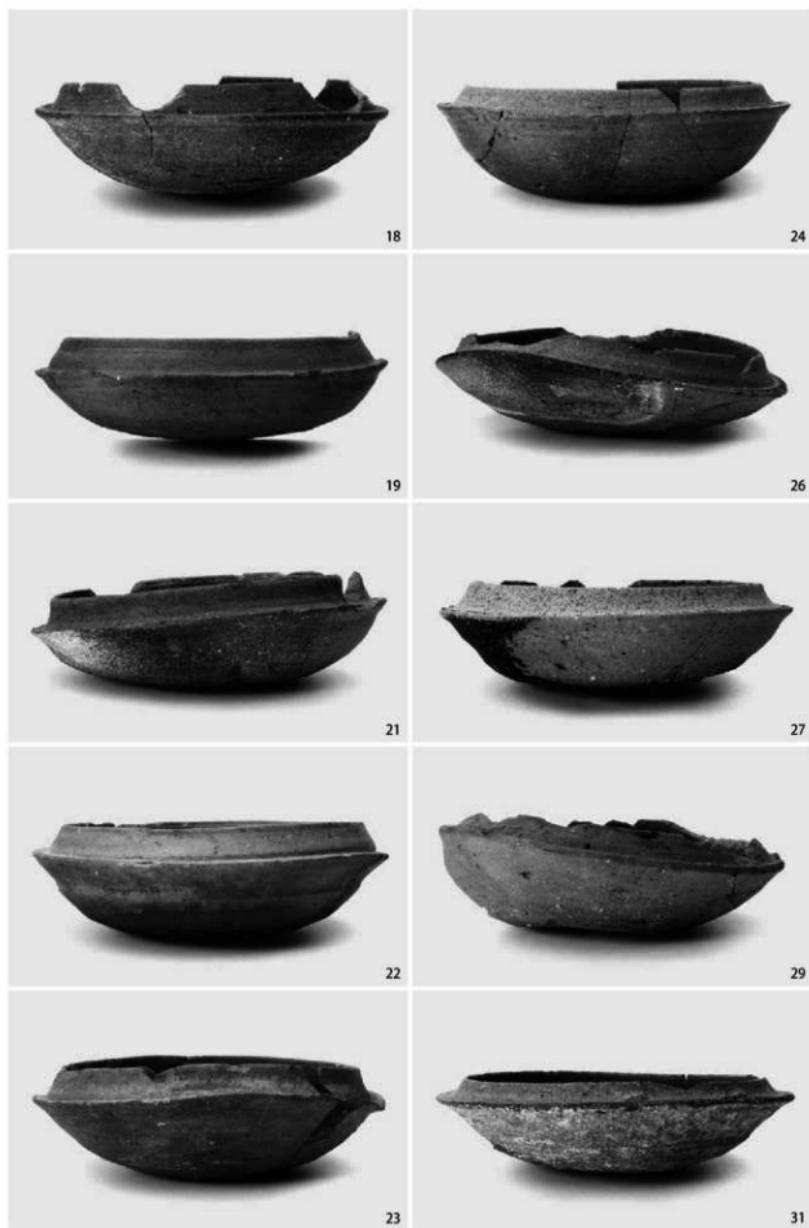
自然流路内土器検出状況
(西侧溝)



小土坑 19・20 出土須恵器

図版七 自然流路土器だまり出土遺物その2







図版一〇 自然流路土器だまり出土遺物その5



39

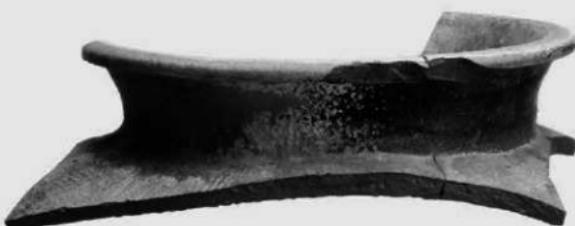
図版一一 自然流路土器だまり出土遺物その6



42



43



40



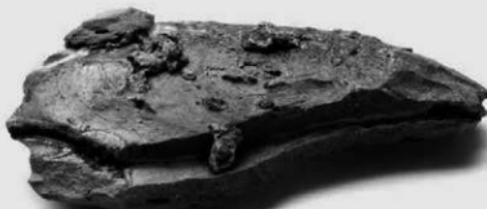
47



46



44



融着須恵器



45

自然流路土器だまり出土把手付き鍋



51



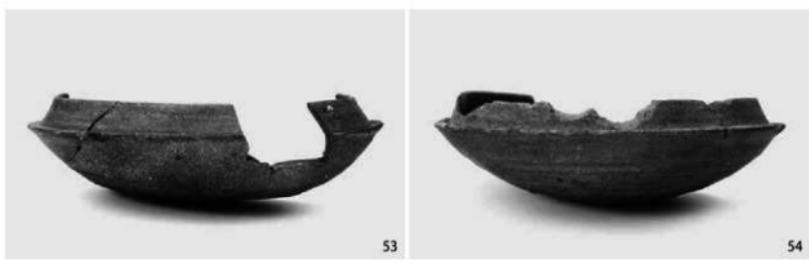
50



20・28層出土須恵器

図版一四
一一〇・一八層出土遺物その2





20・28層出土須恵器



18・20層出土須恵器環蓋



60



59



67



62



68



69



18・20層出土須惠器

圖版一七 1區自然流路出土遺物



72

18・20層出土土器壺



73



75



74



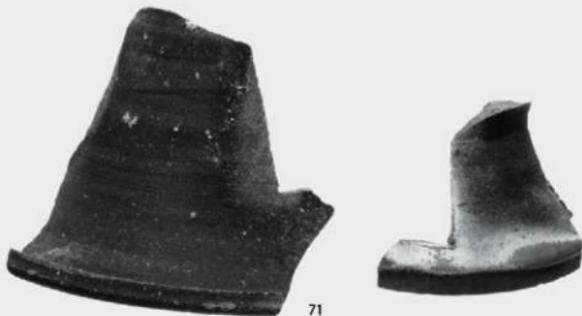
76



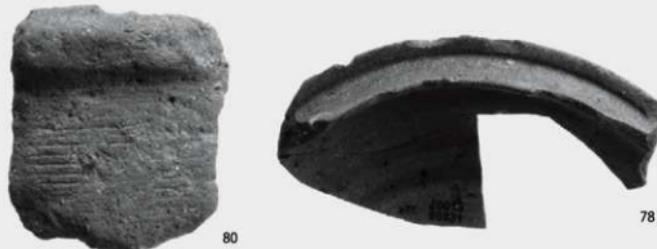
75

1區自然流路出土土器

圖版一八 第3層・第2層出土遺物



18・20層出土須惠器高環



第3層・第2層出土土器

報告書抄録

大阪府埋蔵文化財調査報告2021－3

太井遺跡

—府立農芸高等学校水禽舎新築工事に伴う発掘調査—

発 行 大阪府教育委員会

〒540－8571 大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06－6941－0351(代表)

発行日 令和4年3月31日

印 刷 株式会社 近畿印刷センター

〒582－0001 柏原市本郷5丁目6番25号